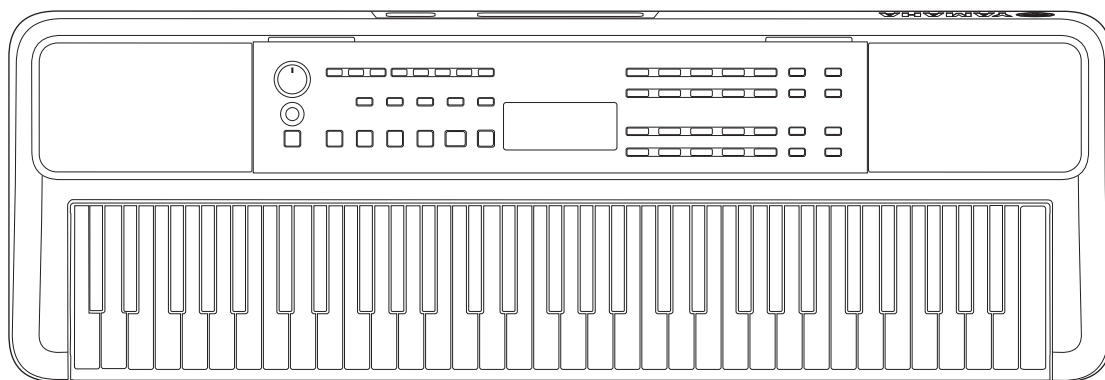

電子キーボード

リファレンスマニュアル

PSR-E383



説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

- **取扱説明書(製品に付属)**




この楽器の基本的な機能や使い方を説明しています。

ご使用前にお読みいただく「安全上のご注意」や保証書も掲載していますので、必ず最初にお読みいただき、大切に保管してください。

-  **リファレンスマニュアル(本書)**

この楽器のすべての機能について、詳しく説明しています。

表記上の決まり

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。
ご注意	「製品の故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。
 NOTE	知っておくとよい補足情報です。

- **データリスト**

この楽器に搭載している音色、ソング、スタイルなどのリストやMIDIに関する資料を掲載しています。

- **スマートデバイス接続マニュアル**

楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続する方法などを説明しています。

ソングブックのダウンロード



ソングブック

この楽器に搭載されているソング(一部を除く)の楽譜が掲載されています。
下記ウェブサイトより無料でダウンロードできますので、演奏するときにぜひご利用ください。

<https://manual.yamaha.com/mi/kb-ekb/psr-e383/downloads/>



■ 動画マニュアル

この楽器の使い方を説明した動画マニュアルを用意しています。



左のQRコードを読み取れない場合は、下記ウェブサイトにアクセスしてください。

<https://manual.yamaha.com/mi/kb-ekb/psr-e383/videos/>

付属品

取扱説明書 × 1

電源アダプター × 1

製品登録のご案内 × 1

譜面立て × 1

もくじ

説明書について	2
付属品	2
もくじ	3
リファレンスマニュアルの記載内容に関するお知らせ	5
対応フォーマットと機能	5
ご使用前の準備	6
電源の準備	6
電源を入れる/切る	7
オートパワーオフ機能	7
譜面立てを使う	7
各部の名称と機能	8
基本操作	12
音色、ソング、スタイルを選ぶ	13
テンポを変える	15
メトロノームを使う	16
画面表示	17
いろいろな楽器(音色)で弾く	18
音色(メイン音色)を選ぶ	18
グランドピアノの音で弾く	18
もう1つの音色(デュアル音色)を重ねる	19
左手と右手とで別の音色(スプリット音色)を弾く	20
鍵盤のタッチレスポンスを変更する	21
アーティキュレーション効果をかける	22
ハーモニーまたはアルペジオを使う	23
アルペジオとソング/スタイルの同期タイミングを変更する(アルペジオクオンタイズ)	25
演奏や再生音に効果をかける	26
DSP効果をかける	26
リバーブタイプを選ぶ	27
コーラスタイプを選ぶ	27
マスターEQを設定してお好みの音にする	28
音に余韻を付ける(サステイン)	28
鍵盤を左右に分けて2人で同じ音域で弾く(デュオ)	29
リズムや自動伴奏を再生しながら演奏する(スタイル)	30
コードを自動再生する(オートコードプレイ)	30
コードの弾き方(フィンガリングタイプ)を設定する	31
スタイルキーを設定する	31
コードを自分で弾きながら演奏する	32
スタイルに変化を付ける	33
スタイル再生用のコードの押さえ方	35
スマートコードで再生されるコード	36
ミュージックデータベースを使う	37
スタイルファイルの登録	37

ソングを再生する	38
デモソングを再生する	38
ソングを1曲選んで再生する	39
ソングを連続再生する	39
ソングを早送り、早戻し、一時停止する	40
内蔵ソングのメロディー音色を変更する	40
ソングの一部をくり返して再生する(A-Bリピート)	41
ソングのパートをオン/オフする	41
コンピューターからソングファイルをコピーする	41
鍵盤を弾くタイミングと強さを意識して練習する(リズム&タッチスタディ)	42
レッスン機能を使って練習する	43
ソングマスター	44
3ステップレッスン(お手本、タイミング、マイペース)	47
自分の演奏を録音する	49
ユーザーソングを新規録音する	49
パート(トラック)ごとに録音する	50
ユーザーソングを消去する	51
好みの設定を記録させる(レジストレーションメモリー)	52
記録したパネル設定を呼び出す	52
パネル設定をレジストレーションメモリーに記録する	53
レジストレーションメモリーを消去する	53
登録した設定のうち呼び出したいくない項目を指定する(フリーズ)	53
他の機器と接続する	54
別売のヘッドホン/外部スピーカーを使う	54
ペダル(フットスイッチ)を使う	54
オーディオ機器の音をこの楽器で鳴らす	55
コンピューターと接続する	56
スマートデバイスに接続する	59
メロディーパートの音を小さくする(メロディーキャンセル機能)	59
機能設定	60
バックアップと初期化	66
バックアップされるデータや設定	66
楽器を初期化する	66
困ったときは	67
仕様	69
索引	71

リファレンスマニュアルの記載内容に関するお知らせ

- このリファレンスマニュアルに掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

対応フォーマットと機能



GMシステムレベル1

メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。



XGライト

ヤマハの高品位な音源フォーマットである「XG」の簡易(ライト)版です。「XG」のソングデータを「XGlite」マークの付いた音源を使って手軽に再生して楽しむことができます。ただし、「XGlite」ではコントロールできるパラメーターやエフェクトなどに一部制限がありますので、「XG」のソングデータが元のデータと異なって聞こえる場合があります。



スタイルファイルフォーマット(SFF)

「スタイルファイルフォーマット(SFF)」とは、ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した、伴奏スタイルに関するフォーマットです。



タッチレスポンス

弾く強さに応じて鍵盤の演奏音に強弱が付けられる機能です。

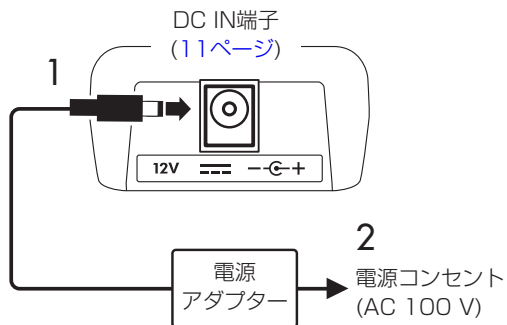
ご使用前の準備

電源の準備

この楽器の電源には、電源アダプターか電池を使用できますが、電源アダプターのご使用をおすすめします。

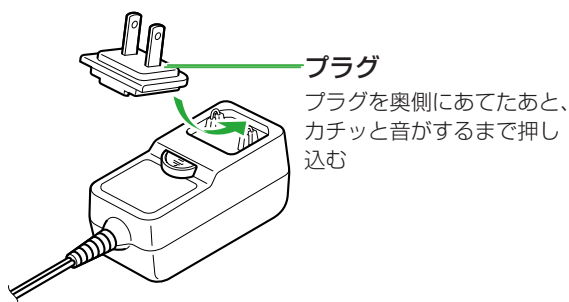
■ 電源アダプターを使う

図の順序で電源アダプターを接続します。



⚠ 警告

- 電源アダプターは、必ず付属または指定のもの(70ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないよう注意して、カチッと音がするまで押し込んでください。また異物が入らないようご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



- 本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

- 電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

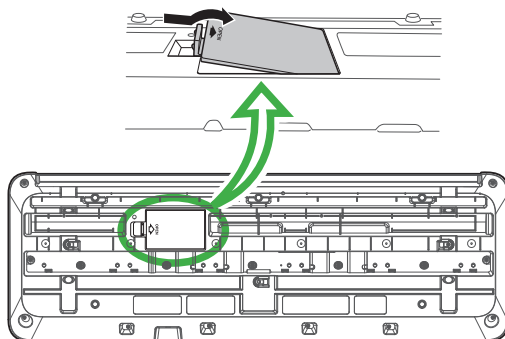
■ 電池を使う

この楽器は、単3形のアルカリ乾電池、マンガン乾電池、充電式ニッケル水素電池(充電電池)を使用できます。ただし、使い方により大きな電力を消費する場合がありますので、アルカリ乾電池または充電電池のご使用をおすすめします。

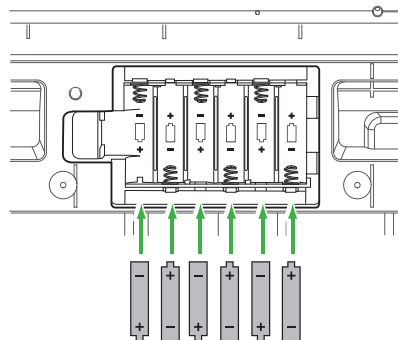
⚠ 警告

- 取扱説明書記載「安全上のご注意」の「電池」の注意事項をお読みください。

- 電源が切れていることを確認してください。
- 本体を柔らかい布などの上で裏返し、電池カバーを外します。



- 電池6本を入れます。イラストに合わせて、向きを間違えないように入れてください。



- 電池カバーを閉めます。
- 楽器の電源を入れたあと、お使いの電池の種類に合わせて、本体の設定を切り替えてください(7ページ)。

ご注意

- 電池がセットされ電源が入っているときに、電源アダプターを抜き差しすると、電源が切れることがあります。電源が切れると録音中や転送中のデータが失われますので、ご注意ください。
- 電池は早めの交換をおすすめします。電池の残量が少なくなると、音量が小さくなったり、音質が劣化したり、正常に動かなくなったりすることがあります。

NOTE

- 充電は、必ず専用の充電器で充電してください。この楽器では、充電できません。
- 電池が本体に入っている状態でも、電源アダプターが接続されている場合は、電源アダプターが電源として使われます。

■ 電池の種類を設定する

お使いの電池の種類に合わせて、本体の設定(乾電池または充電池)を切り替えてください。設定は、電源を入れたあと、機能設定画面(65ページ、機能番号063)で切り替えます。

初期設定：Alkaline

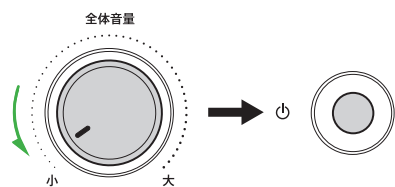
Alkaline	アルカリ乾電池、マンガン乾電池
Ni-MH	充電式ニッケル水素電池(充電池)

ご注意

- 電池の種類の設定を間違えると、電池の劣化を早め、使用可能時間が短くなります。正しい設定でお使いください。

電源を入れる/切る

1 [全体音量]ダイヤルを左に回し、音量を最小にします。



2 [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。電源が入ると、画面に表示が現れます。

3 鍵盤を弾いて音を出しながら、全体音量を調節します。

4 電源を切るには、もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒ほど押します。

⚠ 警告

- 電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

ご注意

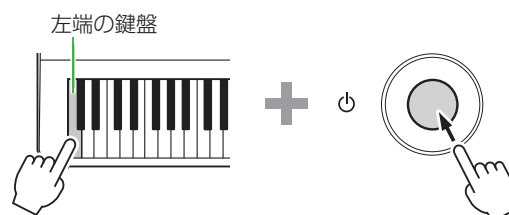
- 電源を入れるときは、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチ以外(鍵盤、ボタン、フットスイッチなど)を操作しないでください。楽器が誤動作する原因になります。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、楽器を15分間操作しないと、自動的に電源が切れます。電源が切れるまでの時間は、機能設定画面(65ページ、機能番号062)で変更できます。

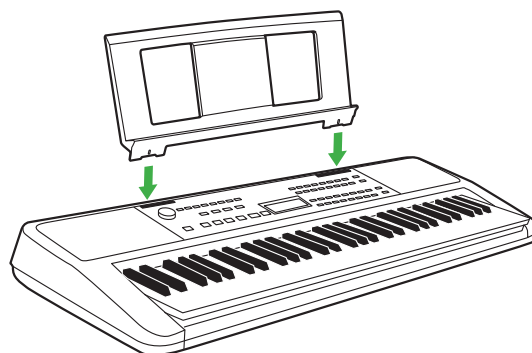
■ オートパワーオフ機能を簡単に解除する

左端の鍵盤を押したまま電源を入れます。画面に「AutoOff Disabled」が表示され、自動では電源が切れなくなります。



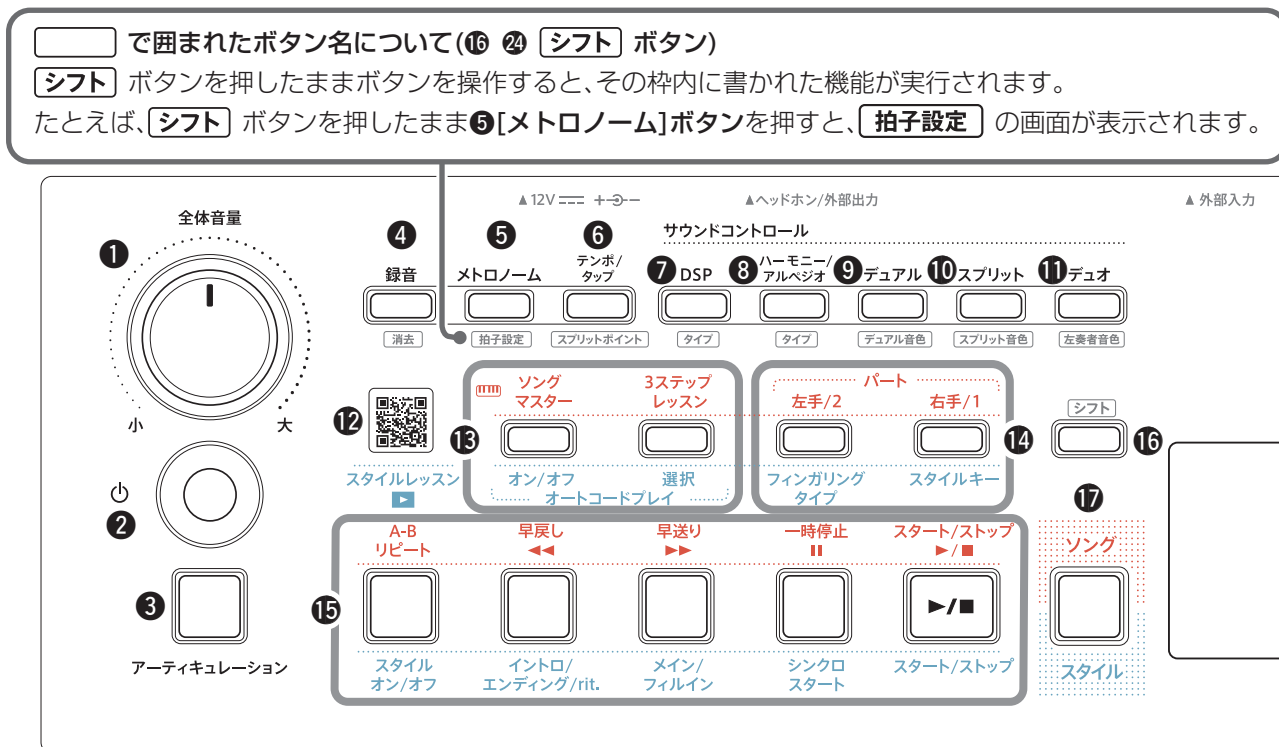
譜面立てを使う

譜面立ては本体の溝に差し込んでお使いください。



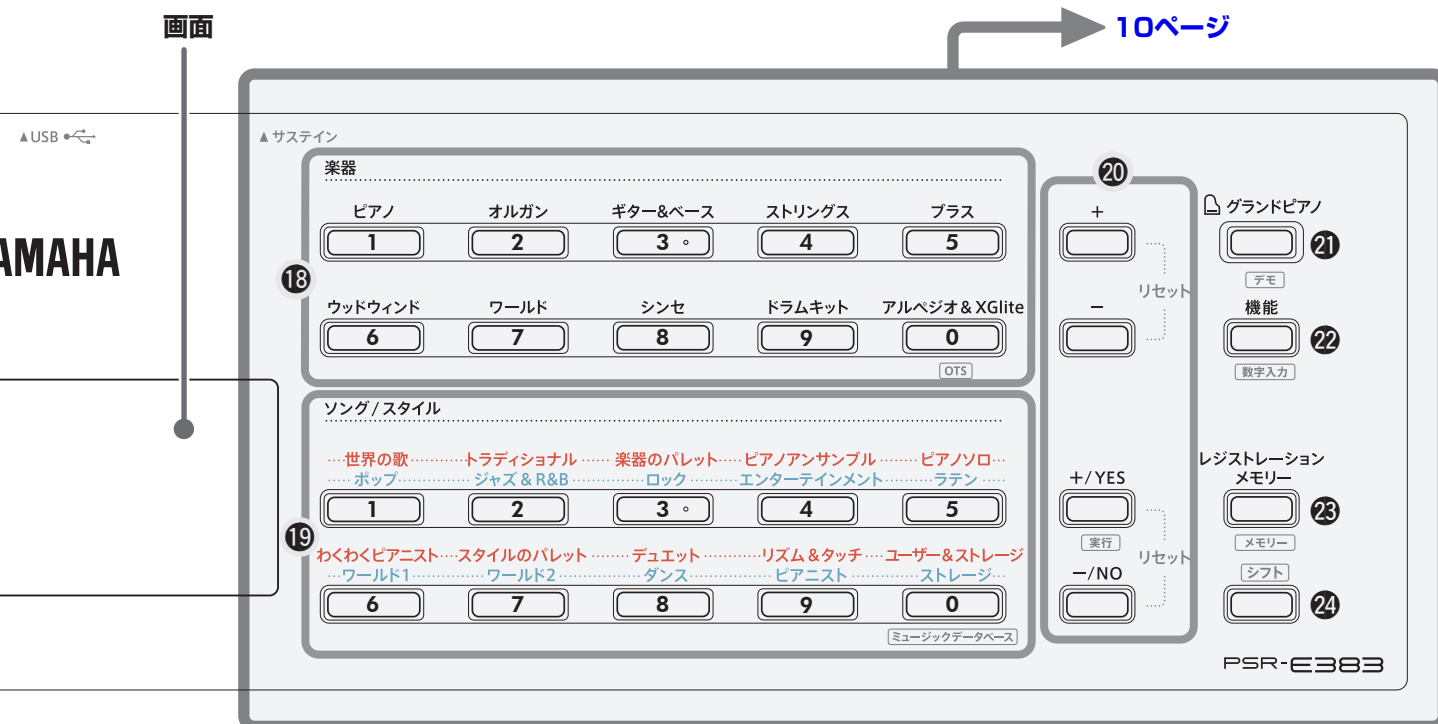
各部の名称と機能

■ フロント(正面)パネル



- ① [全体音量]ダイヤル..... 7ページ
楽器の全体音量を調節します。
- ② [電源(スタンバイ/オン)]スイッチ..... 7ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ③ [アーティキュレーション]ボタン..... 22ページ
演奏音に楽器特有の奏法を再現する効果や音を揺らすような効果をかけます。
- ④ [録音]ボタン..... 49ページ
演奏を録音します。
消去..... 51ページ
録音したユーザーソングを消去します。
- ⑤ [メトロノーム]ボタン..... 16ページ
メトロノームをスタート/ストップします。
拍子設定..... 16ページ
設定画面が表示され、メトロノームの拍子を設定できます。
- ⑥ [テンポ/タップ]ボタン..... 15ページ
ソング/スタイル/メトロノームのテンポを設定できます。
スプリットポイント..... 20、29、32ページ
設定画面が表示され、スプリットポイントを設定できます。

- ⑦ [DSP]ボタン..... 26ページ
音にデジタル信号処理を施して変化を付ける効果、DSP(デジタルシグナルプロセッサ)のオン/オフを切り替えます。
タイプ..... 26ページ
選択画面が表示され、DSPのタイプを選べます。
- ⑧ [ハーモニー/アルペジオ]ボタン..... 23ページ
鍵盤演奏音にハーモニーなどの効果を付けたり、アルペジオ(分散和音)を鳴らしたりできます。
タイプ..... 23ページ
設定画面が表示され、ハーモニータイプやアルペジオタイプを選べます。
- ⑨ [デュアル]ボタン..... 19ページ
選択中の音色(メインボイス)に加えて、もう1つ別の音色を重ねて鳴らせます。
デュアル音色..... 19ページ
設定画面が表示され、重ねる音色(デュアル音色)を選べます。
- ⑩ [スプリット]ボタン..... 20ページ
鍵盤全体を左右、2つの領域に分けて、別々の音色で演奏できます。
スプリット音色..... 20ページ
設定画面が表示され、スプリットポイントより低い(左側の)鍵盤で鳴らす音色(スプリット音色)を選べます。



11 [デュオ]ボタン.....29ページ

鍵盤全体を左右、2つの領域に分けて、2人で同時に同じ音域で演奏できます。

左奏者音色.....29ページ

設定画面が表示され、左奏者側の音色を変更できます。

12 [スタイルレッスン]動画再生用コード.....30ページ

このQRコードをコードリーダーで読み取ると、スタイルを使った演奏方法が分かる動画をご覧いただけます。

ソングモードのとき

13 [ソングマスター]、[3ステップレッスン]ボタン.....44、47ページ

1曲を短いフレーズに分けて練習する「ソングマスター」レッスンや「3ステップレッスン」のオン/オフを切り替えたり、「3ステップレッスン」のレッスンモードを選んだりします。

14 パート[左手/2]、[右手/1]ボタン...41、50ページ

選択中のソングのレッスンしたいパートや音を消したいパートを選んだり、録音するパートを選んだりします。

15 ソングコントロールボタン.....39、42ページ

ソング再生をコントロールします。

スタイルモードのとき

16 オートコードプレイ[オン/オフ]、[選択]ボタン.....30ページ

オートコードプレイ機能のオン/オフを切り替えたり、オートコードプレイ機能を使うときのコード進行を選んだりします。

17 [フィンガリングタイプ]、[スタイルキー]ボタン.....31ページ

スタイルに合わせて演奏するときのコードの弾き方を設定します。

18 スタイルコントロールボタン.....30、32、33ページ

スタイル再生をコントロールします。

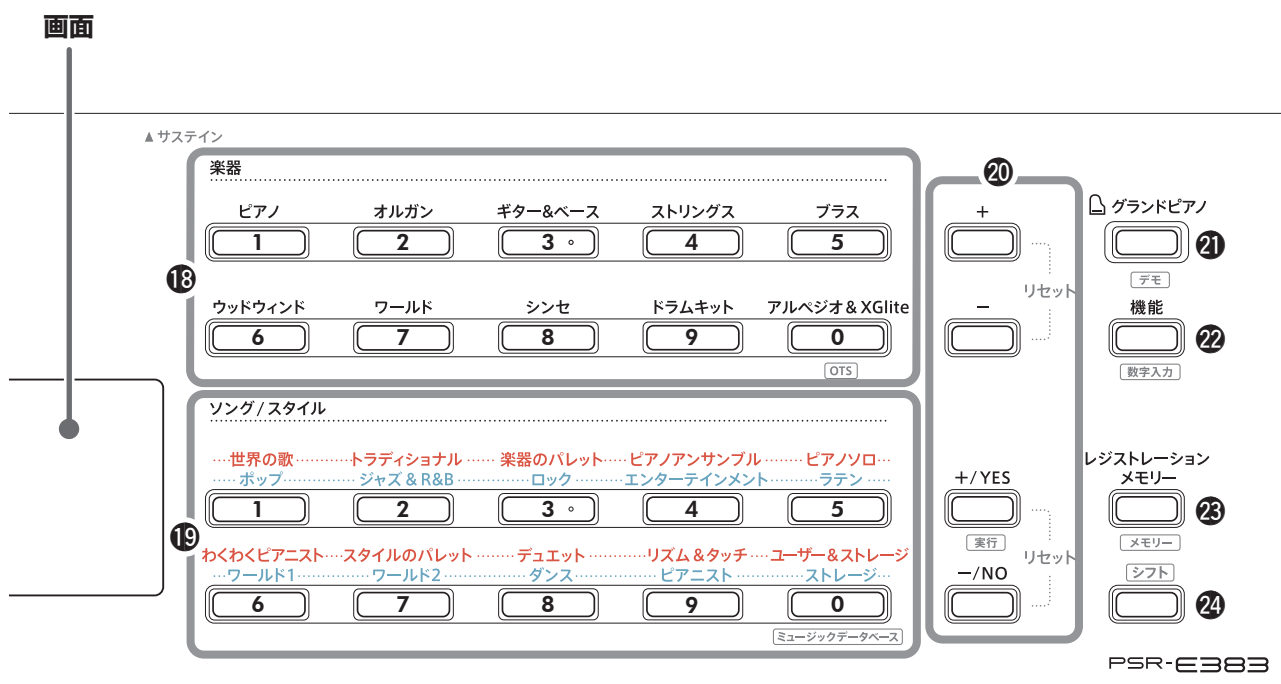
19 シフト ボタン.....8、17ページ

主な使い方は、8ページ上部のボックス内の説明をご覧ください。画面表示をホーム画面(17ページ)に戻したい時も、このボタンを押します。

20 [ソング]/[スタイル]ボタン.... 12、13、14ページ

ソングモードとスタイルモードを切り替えます。

■ フロント(正面)パネル



18 楽器カテゴリーボタン 12、13、18ページ

お好みの楽器(音色)を選びます。

24 [シフト] ボタンを押したまま22[機能]ボタンを押すと、これらのボタンが数字ボタンとして使えるようになり、音色番号や設定値を数字で入力できるようになります。

[OTS] (ワンタッチセッティング) 18ページ

選んだスタイルやソング(外部機器から再生したソングを除く)に最適な音色が自動的に選ばれます。

19 ソング/スタイルカテゴリーボタン 12、13、32、39ページ

お好みのソングやスタイルを選びます。

24 [シフト] ボタンを押したまま22[機能]ボタンを押すと、これらのボタンも18楽器カテゴリーボタンと同じように、数字ボタンとして使えるようになります。

[ミュージックデータベース] 37ページ

選んだお好みの音楽ジャンル(ミュージックデータベース)に最適なパネル設定が呼び出されます。

20 [+]/[-] ボタン, [+/YES]/[-/NO] ボタン 13、60ページ

項目を選んだり、値を設定したりします。2つのボタンを同時に押すと、初期設定に戻せます(リセット)。

[実行] 58ページ

コンピューターからコピーしたスタイルファイルを楽器に登録する操作を実行します。

21 [グランドピアノ] ボタン 18ページ

楽器の音色が「Live!コンサートグランドピアノ」(音色番号001)になります。

[デモ] 38ページ

デモソング(ソング番号001 ~ 003)が順番に連続再生されます。

22 [機能] ボタン 60ページ

機能設定画面を表示します。

[数字入力] 14ページ

18楽器カテゴリーボタンや19ソング/スタイルカテゴリーボタンが数字ボタンとして使えるようになります。

23 [レジストレーションメモリー] ボタン 52ページ

楽器に記憶させたパネル設定を呼び出します。

[メモリー] 53ページ

お好みのパネル設定を楽器に記憶させます。

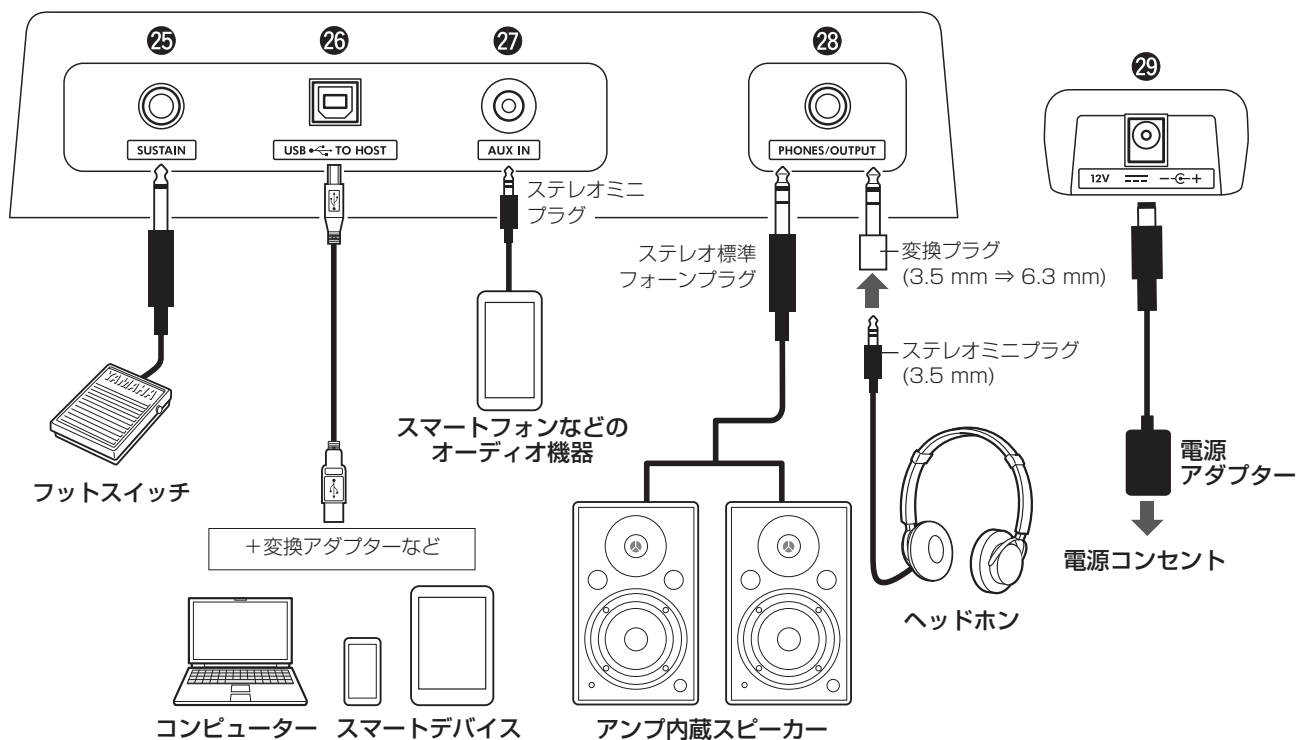
24 [シフト] ボタン 8、17ページ

16 [シフト] ボタン(9ページ)と同じ使い方です。主な使い方は、8ページ上部のボックス内の説明をご覧ください。画面表示をホーム画面(17ページ)に戻したい時も、このボタンを押します。

■ リア(背面)パネル

接続する機器により、使用するケーブルは異なります。

接続例



25 ^{サステイン} [SUSTAIN]端子 54ページ

別売のフットスイッチを接続します。接続したフットスイッチはサステインペダルとして使えます。

26 ^{ユーエスビートゥーホスト} [USB TO HOST]端子 56、59ページ

USBケーブルを使ってコンピューターや、タブレットやスマートフォンなどのスマートデバイスを接続します。楽器とコンピューターとの間でMIDIデータやオーディオデータをやりとりしたり、市販のソングデータを楽器に取り込み、楽器で再生したりできます。また、スマートデバイスアプリを利用して、さまざまな機能を便利に使えるようになります。

ご注意

- USBケーブルは、ABタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。USB3.0ケーブルは使用できません。

27 ^{エーユーエックスイン} [AUX IN]端子 55ページ

スマートフォンなどのオーディオ機器を接続します。楽器本体のスピーカーからオーディオ機器の再生音を鳴らし、再生音に合わせて鍵盤を弾くことができます。

28 ^{フォーンズアウトプット} [PHONES/OUTPUT]端子 54ページ

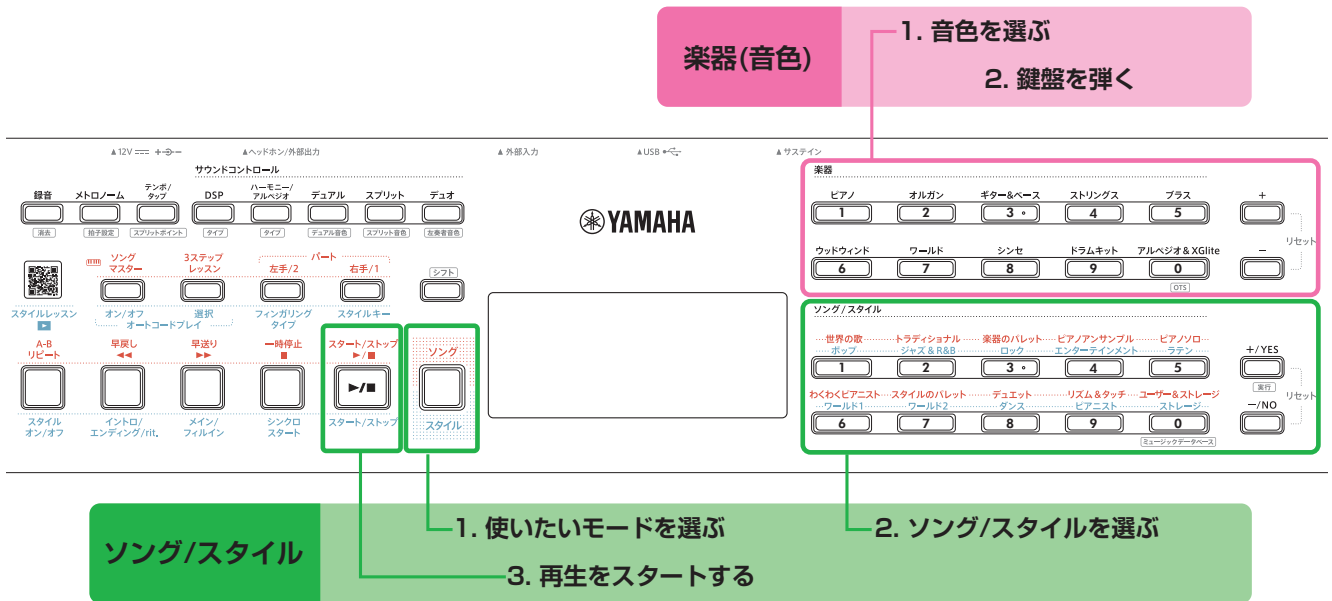
ヘッドホンやアンプ内蔵スピーカー、コンピューター、キーボードアンプなどの外部スピーカーを接続します。ヘッドホンや外部機器を接続すると、自動的にこの楽器のスピーカーからは音が出なくなります。

29 ^{ディーシーイン} DC IN端子 6ページ

電源アダプターを接続します。

基本操作

この楽器の基本機能は、楽器(音色)、ソング、スタイルの3つです。ソング、スタイルはどちらかのモードを選んでから、演奏に使うデータ(音色、ソング、スタイルなど)を選びます。



楽器(音色)

1 音色を選びます。

下記3つの方法のいずれかで選びます。

- 楽器カテゴリーボタンで選ぶ。
- [+]/[-]ボタンで選ぶ。
- 数字入力で選ぶ。

選び方について詳しくは、「音色、ソング、スタイルを選ぶ」(13、14ページ)をご覧ください。

2 鍵盤を弾いてみましょう。

選んだソングやスタイルに合ったパネル設定(音色やテンポなど)を、ワンタッチセッティング(OTS)機能(18ページ)で呼び出すこともできます。

ソング/スタイル

1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して、使いたいモードを選びます。

ボタンを押すたびに、モードが切り替わります。電源を入れた直後は、スタイルモードです。



2 お好みのデータを選びます。

下記3つの方法のいずれかで選びます。

- ソング/スタイルカテゴリーボタンで選ぶ。
- [+]/[-]ボタンで選ぶ。
- 数字入力で選ぶ。

選び方について詳しくは、「音色、ソング、スタイルを選ぶ」(13、14ページ)をご覧ください。

3 [スタート/ストップ]ボタンを押します。

ソング、またはスタイルの再生がスタートします。もう一度[スタート/ストップ]ボタンを押すと、再生はストップします。

音色、ソング、スタイルを選ぶ

音色、ソング、スタイルは、下記3つのいずれかの方法で選べます。

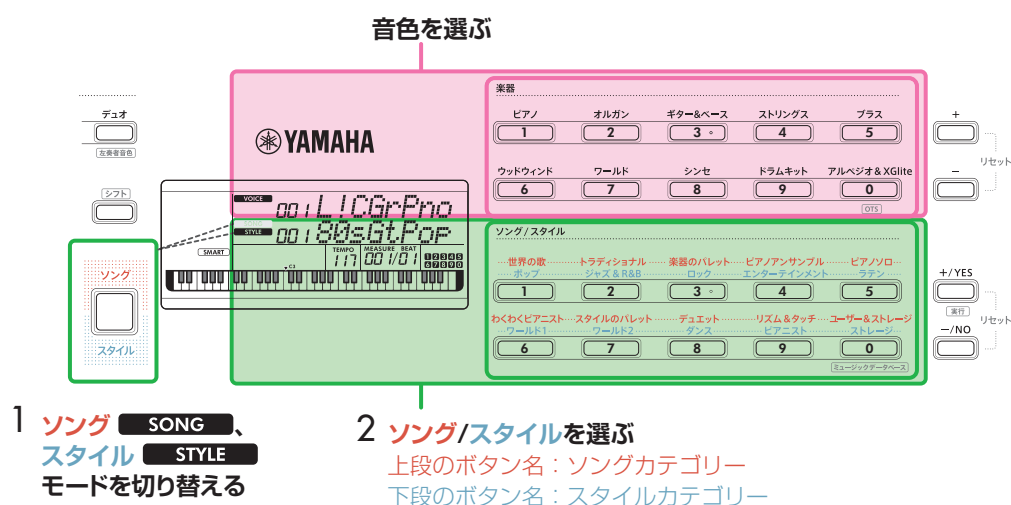
カテゴリーボタンで選ぶ方法

音色

上側の楽器カテゴリーボタンで選びます。

ソング/スタイル

- 1 [ソング]/[スタイル]ボタンで使いたいモードを選びます。
- 2 下側のソング/スタイルカテゴリーボタンで選びます。



[+]/[-]ボタン、[+YES]/[-NO]ボタンで選ぶ方法

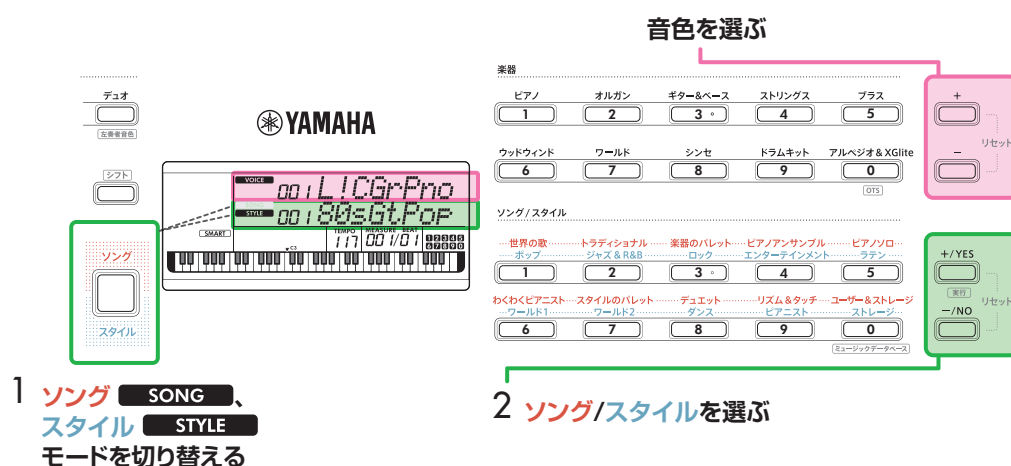
音色

[+]/[-]ボタンで選びます。

ソング/スタイル

- 1 [ソング]/[スタイル]ボタンで使いたいモードを選びます。
- 2 [+YES]/[-NO]ボタンで選びます。

[+]/[-]ボタン、[+YES]/[-NO]ボタンを押し続けると、連続して音色/ソング/スタイルが変わります。
また、[+]と[-]、[+YES]と[-NO]、それぞれ2つのボタンを同時に押すと、音色/スタイルは番号001に、ソングは番号004に戻ります。



数字ボタンで選ぶ方法(数字入力 NUM LOCK)

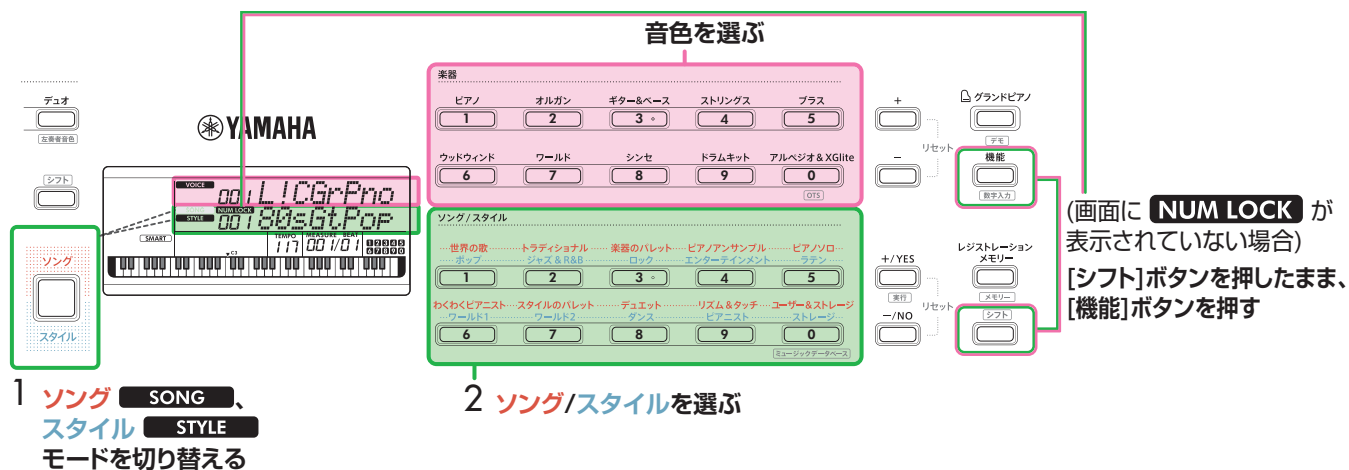
画面に **NUM LOCK** が表示されていると、数字ボタンで選べます。画面に **NUM LOCK** が表示されていない場合は、[シフト]ボタンを押したまま[機能]ボタンを押します。

音色

上側の楽器カテゴリーボタンを数字ボタンとして、お好みの音色番号を押します。

ソング/スタイル

- 1 [ソング]/[スタイル]ボタンで使いたいモードを選びます。
- 2 下側のソング/スタイルカテゴリーボタンを数字ボタンとして、お好みのソング/スタイル番号を押します。



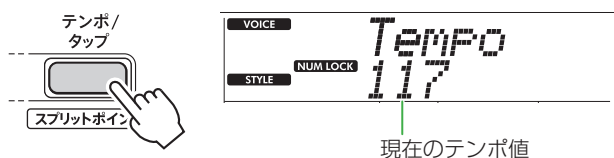
音色番号、ソング/スタイル番号について詳しくは、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

テンポを変える

メトロノーム(16ページ)、スタイル(30ページ)、ソング(38ページ)のテンポを変えられます。

1 [テンポ/タップ]ボタンを押して、テンポ設定画面を表示させます。

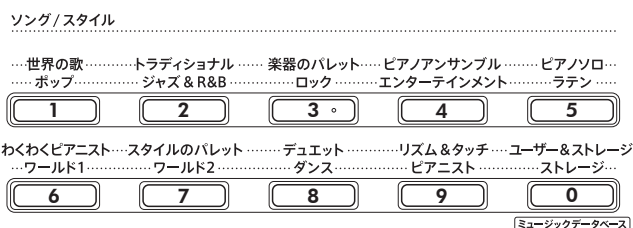
画面に現在のテンポ値が表示されます。



[テンポ/タップ]ボタンを押すと、画面に **NUM LOCK** アイコンが表示されます。このアイコンが表示されている間は、ソング/スタイルカテゴリボタンを数字ボタンとして使えるようになります。

2 ソング/スタイルカテゴリボタンを押して、好みのテンポを数値で設定します。

設定範囲：11 ~ 280

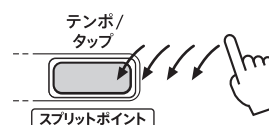


3 [シフト]ボタンを押してテンポ設定画面を抜けます。

タップ機能を使う

ソングやスタイルの再生中に、[テンポ/タップ]ボタンを2回押すとテンポを変えられます。間隔を空けて押すとテンポはゆっくり、間隔を空けずに素早く押すとテンポは速くなります。停止中は、選ばれているスタイル/ソングが4拍子なら4回、3拍子なら3回、[テンポ/タップ]ボタンを押すと、その間隔のテンポで再生をスタートできます(タップスタート)。

設定範囲：32 ~ 280



メトロノームを使う

曲を練習するときなどに、メトロノームを使います。

- 1 [メトロノーム]ボタンを押してスタートします。



- 2 メトロノームをストップするには、[メトロノーム]ボタンをもう一度押します。

メトロノームの音量を設定する

機能設定画面(63ページ、機能番号036)で設定します。

初期設定：100

設定範囲：0～127

メトロノームの拍子を設定する

ここでは、例として、6/8拍子に設定する手順を紹介し
ます。

- 1 [シフト]ボタンを押したまま、[メトロノーム]ボタンを押します。

画面上段に「TimeSigN」、下段に現在のメトロノームの拍子が表示されます。

ソング/スタイルカテゴリーボタンを数字ボタンとして使えるようになります。

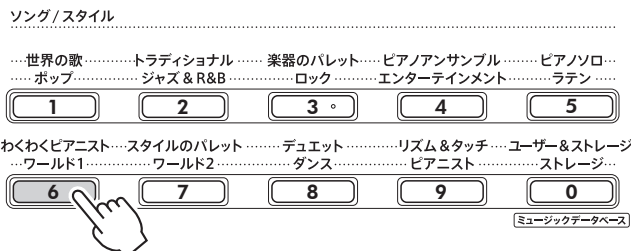


拍子(分子)

- 2 ソング/スタイルカテゴリーボタンを押して、好みの拍子を数値で設定します。

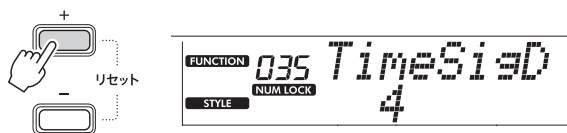
拍子を「0」にした場合を除いて、1拍目に「チーン」と鳴り、それ以外の拍では「カチ」と鳴ります。この例では、「6」を選びましょう。

設定範囲：0～60



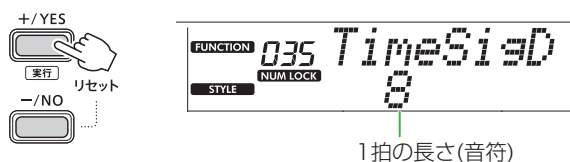
- 3 [+]ボタンを押します。

画面上段に「TimeSigD」、下段に1拍の長さ(音符)が表示されます。



- 4 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、2、4、8、16分音符の中から音符を選びます。

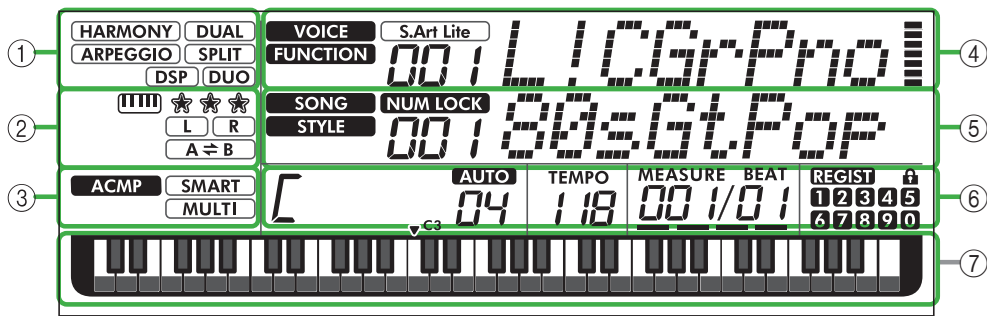
この例では、「8」を選びましょう。



- 5 [シフト]ボタンを押して、設定画面を抜けます。

- 6 メトロノームを鳴らして確認してみましょう。

画面表示



① 各種機能の状態表示

各機能のオン/オフの状態を表示します。

HARMONY	ハーモニー (23ページ)
ARPEGGIO	アルペジオ (23ページ)
DSP	DSP (26ページ)
DUAL	デュアル (19ページ)
SPLIT	スプリット (20ページ)
DUO	デュオ (29ページ)

② ソング、録音パート、レッスン関連表示

レッスン(43ページ)やソング/録音パート(41、50ページ)に関連する情報を表示します。

 	ソングマスター (44ページ)
☆☆☆	ソングマスターの合格結果 (45ページ)
L R	ソング/録音パート情報 (41、50ページ)
A ⇄ B	A-Bリピート (41ページ)

③ スタイル関連表示

ACMP	スタイル(自動伴奏)がオンのときに表示 (32ページ)
SMART	スタイルに合わせて演奏するときのコードの弾き方(フィンガリングタイプ、31ページ)
MULTI	

④ メイン表示(上段)

選択中の音色名や番号を表示します。機能設定(60ページ)中は、機能番号と機能名を表示します。音色名/機能名の左側に表示されるアイコンや、右側のメーター表示は、それぞれ以下の意味です。

VOICE	音色名表示中
FUNCTION	機能設定中
S.Art Lite	S.Art Lite音色(22ページ)を選択中
 	鍵盤を弾いた強さ(タッチレスポンス、21ページ)を表すメーター表示

⑤ メイン表示(下段)

選択中のソング/スタイル名や番号を表示します。機能設定(60ページ)中は、各機能の設定値を表示します。ソング/スタイル名や設定値の左側に表示されるアイコンは、それぞれ以下の意味です。

SONG	ソングモード選択中
STYLE	スタイルモード選択中
NUM LOCK	数字入力が有効(14ページ)

⑥ 再生/録音状態、機能の状態表示

認識されているコードやテンポなど再生や録音の状態や、機能の設定値を表示します。

[自動伴奏鍵域(32ページ)で弾いたコード、オートコードプレイ(30ページ)やソング(38ページ)で再生されたコード
AUTO 04	AUTO : オートコードプレイがオンのときに表示 数字 : 再生する小節(コード)数のカウントダウンをくり返し表示
TEMPO 118	テンポ (15ページ)
MEASURE BEAT 00 1/01	MEASURE : 小節番号 BEAT : ビート
REGIST 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	レジストレーションメモリー (52ページ)の状態 ・データが入っているメモリー番号 ・フリーズのオン/オフ

⑦ 鍵盤表示

押した鍵盤の位置を表示します。鍵盤表示の中央付近に、C3=真ん中のドを示す「▼C3」マークがあります。真ん中のドの位置や鍵盤と楽譜の関係については、ウェブサイト上のソングブック(本書2ページ)をご覧ください。

ホーム画面へ戻る(**シフト** ボタン)

上段に音色名、下段にソングまたはスタイル名が表示された画面を「ホーム画面」と呼びます。機能設定画面(60ページ)のようなホーム画面以外の画面からホーム画面に戻るには、**シフト** ボタンを押します。

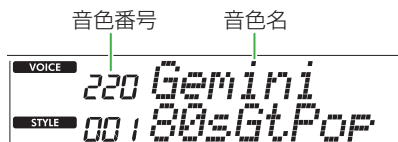
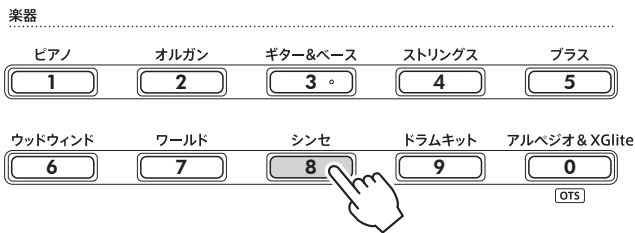
いろいろな楽器(音色)で弾く

この楽器ではピアノやオルガンはもちろん、ギター、ベース、ストリングス、サックス、トランペット、ドラムやパーカッション、効果音など、さまざまな音色で演奏することができます。

音色(メイン音色)を選ぶ

1 楽器カテゴリーボタンのうち、弾きたい音色のボタンを押します。

ボタンを押すたびに、カテゴリー内の音色が順番に切り替わります。



NOTE

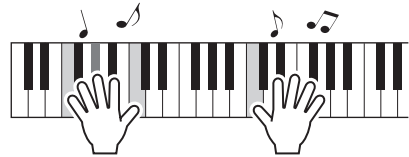
- 音色は、ほかに2つの方法で選べます。詳しくは、[13、14ページ](#)をご覧ください。

各音色の特徴

001 ~ 257	いろいろな楽器の音です。
258 ~ 283	ドラムや打楽器などの音や、効果音などが鍵盤に割り振られています。鍵盤への割り振りについては、ウェブサイト上のデータリスト(本書 2ページ)内「ドラムキットリスト」をご覧ください。
284 ~ 303	アルペジオ演奏(23ページ)が楽しめる音色です。この音色を選ぶと、自動的にアルペジオがオンになります。
304 ~ 650	ヤマハの高品位な音源フォーマットである「XG」の簡易(ライト)版の音、XG Lite音色です。詳細は、ウェブサイト上のデータリスト内「音色リスト」をご覧ください。
000	ワンタッチセッティング(OTS) この番号を選ぶと、選ばれているスタイル(30ページ)、ソング(38ページ)、に最適な音色やパネル設定が自動的に選ばれます。これをワンタッチセッティング(OTS)機能といいます。 ソングやスタイルを選んでから、音色番号000を選びます。

音色の番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書[2ページ](#))をご覧ください。

2 鍵盤を弾いてみましょう。



S.Art Lite音色(スーパーアーティキュレーションライト音色)で演奏する

この楽器に搭載されているS.Art Lite音色を使うと、**[アーティキュレーション]**ボタンで、ギターハーモニクスなど、楽器特有の奏法を再現できます。

→ [22ページ](#)

グランドピアノの音で弾く

いろいろな設定をリセットし、「ピアノの音で弾きたい」というときは、**[グランドピアノ]**ボタンを押しましょう。



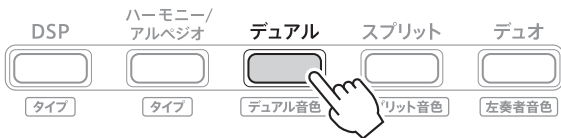
すべての鍵盤の音色が「Live!コンサートグランドピアノ」(音色番号001)になります。

もう1つの音色(デュアル音色)を重ねる

メイン音色に加えて、もう1つ別の音色(デュアル音色)を重ねて鳴らせます。

1 [デュアル]ボタンを押してデュアル機能をオンにします。

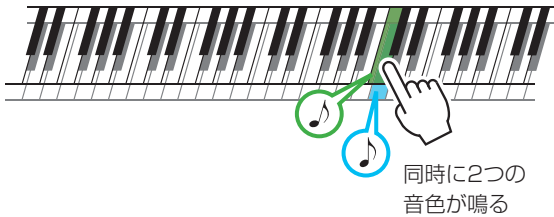
サウンドコントロール



DUAL デュアル機能がオンのときに表示



2 鍵盤を弾いてみましょう。



3 デュアル機能をオフにするには、もう一度[デュアル]ボタンを押します。

デュアル音色を変更するには

デュアル音色は、選択中のメイン音色に最適なものが自動的に選ばれますが、お好みの音色に変更できます。

[シフト]ボタンを押したまま、[デュアル]ボタンを押して表示された画面で、お好みの音色を選びます。

* 音色の選び方→18ページ

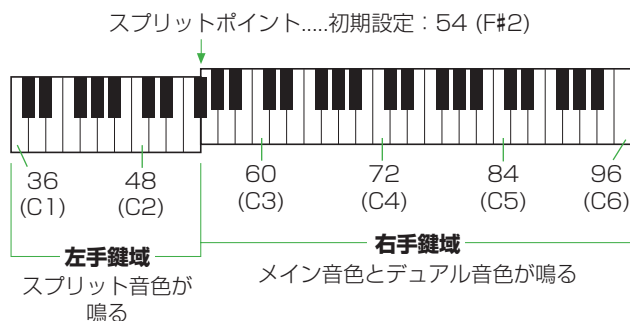
サウンドコントロール



デュアル音色選択画面からホーム画面(17ページ)に戻るには、[シフト]ボタンを押します。

左手と右手とで別の音色(スプリット音色)を弾く

鍵盤全体を2つの領域に分けて、左手と右手で違う音色を鳴らせます。



右側の鍵盤でメイン音色とデュアル音色を鳴らし、左側の鍵盤でスプリット音色を鳴らします。

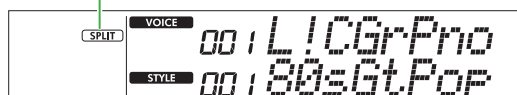
右手鍵域と左手鍵域の境目を「スプリットポイント」と呼び、機能設定画面(60ページ、機能番号003)で変更できます。

1 [スプリット]ボタンを押してスプリット機能をオンにします。

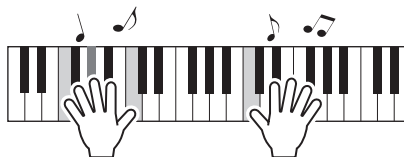
鍵盤が右手鍵域と左手鍵域に分割されます。



SPLIT スプリット機能がオンのときに表示



2 鍵盤を弾いてみましょう。



3 スプリット機能をオフにしたい場合は、もう一度[スプリット]ボタンを押します。

スプリット音色を変更するには

[シフト]ボタンを押したまま、[スプリット]ボタンを押して表示された画面で、好みの音色を選びます。

* 音色の選び方→18ページ



スプリット音色選択画面からホーム画面(17ページ)に戻るには、[シフト]ボタンを押します。

鍵盤のタッチレスポンスを変更する

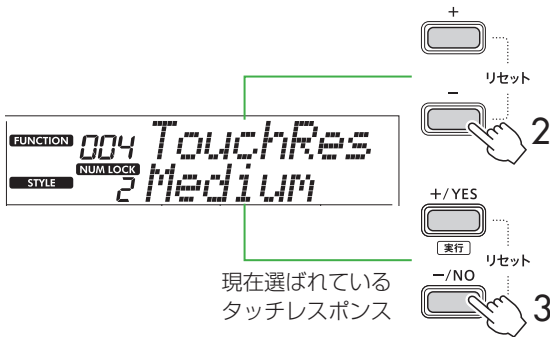
鍵盤を弾く強さに対する音の強弱の付き方（タッチレスポンス）を、変更できます。鍵盤自体の重さは変わりません。

- 1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



- 2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「TouchRes」(60ページ、機能番号004)を表示させます。

画面下段には、現在の設定値が表示されます。



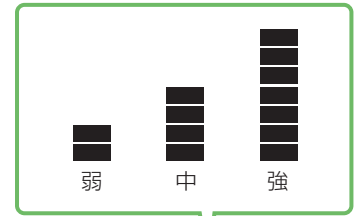
- 3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、設定値を選びます。

タッチレスポンス

1	Soft(ソフト)	弱いタッチで弾いても比較的大きな音が出やすい設定です。指の力の弱い人がしっかり音を出したいときに有効です。
2	Medium (ミディアム)	標準的なタッチです(初期設定)。
3	Hard(ハード)	より強く弾かないと大きな音が出にくい設定です。繊細なピアノッシモから迫力のあるフォルティッシモまで、ダイナミックな表現が必要な演奏に適しています。
4	Off(オフ)	タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。

- 4 鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾く強さに応じて、画面上段右端に強弱メーターが点灯します。



NOTE

- タッチレスポンスが「Off(オフ)」のときは、強弱メーターの表示は「中」で固定されます。

アーティキュレーション効果をかける

ギターのハーモニクスなど、楽器特有の奏法を再現する効果です。[アーティキュレーション]ボタンを押している間だけ、演奏音にアーティキュレーション効果がかかります。

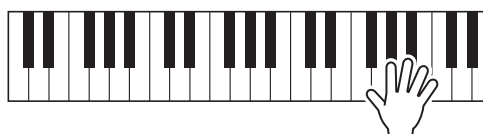
この効果をかけられる音色をS.Art Lite音色(スーパーアーティキュレーションライト音色)と呼びます。

1 お好みのS. Art Lite音色を選びます。

S.Art Lite音色を選択すると、画面に **S.Art Lite** が表示されます。また、S.Art Lite音色は、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)内の「音色リスト」で「***」が付けられています。



2 鍵盤を弾きながら、[アーティキュレーション]ボタンを使って効果を試してみましょう。



[アーティキュレーション]ボタンを離すと、アーティキュレーション効果はオフになります。

アーティキュレーション効果の例

ギターを選択した場合、以下のような操作でギター固有の奏法をリアルに再現できます。

例：音色番号064[S.Art Liteナイロン弦ギター ハーモニクス]
[アーティキュレーション]ボタンを押したまま鍵盤を弾くと、ハーモニクス音が鳴ります。

例：音色番号068[S.Art Liteディストーションギター]
[アーティキュレーション]ボタンを押すと、ピックスクラッチ音が鳴ります。

アーティキュレーション効果は、S.Art Lite音色が選択されている場合のみ、その音色に最適な効果がかかります。そのほかの場合は、アーティキュレーション効果はかからず、かわりに音を揺らすような効果がかかります。

ペダルを使ってアーティキュレーション効果をかける

機能設定画面(63ページ、機能番号033)でペダル(フットスイッチ)にアーティキュレーション機能を割り当てると、ペダルを踏むことで効果をかけられます。

NOTE

- アーティキュレーション効果はメイン音色にのみかかります。
- S.Art Lite音色は、鍵盤を弾く強さ(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。

ハーモニーまたはアルペジオを使う

鍵盤演奏音にハーモニー音を自動で付けたり、アルペジオ(分散和音)を自動再生したりできます。ハーモニータイプ(001～026)を選ぶと、メイン音色の演奏音にデュエットやトリオなどのハーモニーや、トレモロ、エコーなどの効果をかけられます。アルペジオタイプ(027～178)を選ぶと、鍵盤を押さえるだけで、アルペジオ(分散和音)の自動再生ができます。

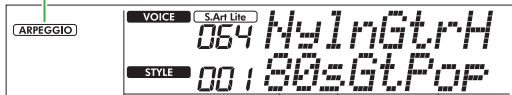
1 [ハーモニー/アルペジオ]ボタンを押して、ハーモニーまたはアルペジオをオンにします。

サウンドコントロール



HARMONY ハーモニーがオンのときに表示
または

ARPEGGIO アルペジオがオンのときに表示



オンにすると、そのときの音色に最適なハーモニータイプまたはアルペジオタイプが自動的に選ばれます。自分で好きなタイプを選択したいときは、手順2～3の操作で選択します。

NOTE

- 284～303の音色は、選ぶだけでアルペジオが自動的にオンになります。それ以外の音色では、[ハーモニー/アルペジオ]ボタンを押して、アルペジオをオンにしてください。

2 [シフト]ボタンを押したまま[ハーモニー/アルペジオ]ボタンを押します。

画面上段に「Harm/Arp」、下段に現在のタイプが表示されます。



現在選ばれているタイプ

3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、タイプを選びます。

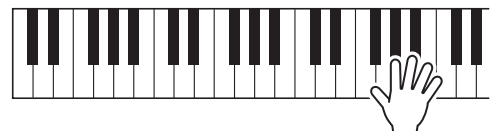
ソング/スタイルカテゴリーボタンで、ハーモニータイプやアルペジオタイプを番号(数値)で設定することもできます。詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

NOTE

- 143～178番のアルペジオタイプを選んだときは、以下の音色をメイン音色として選択してください。
 - 143～173番：ドラムキット(音色番号258～270)
 - 174番(Chinese)：音色番号271「中国キット」
 - 175番(Indian)：音色番号275「インドキット1」、276「インドキット2」
 - 176番(Arabic)：音色番号277「アラビックキット」
 - 177番(Indonesia)：音色番号272「インドネシアキット1」、273「インドネシアキット2」、274「インドネシアキット3」
 - 178番(African2)：音色番号278「アフリカンビッグキット」

4 鍵盤を押さえてみましょう。

ハーモニータイプ001～005を選択した場合は、スタイルをオン(32ページ)にして自動伴奏鍵域でコードを弾きながら、右手鍵域でメロディーを弾いてください。詳しくは、24ページをご覧ください。



5 もう一度[ハーモニー/アルペジオ]ボタンを押すと、ハーモニーまたはアルペジオはオフになります。

タイプ別の弾き方

● ハーモニータイプ(001 ~ 026)

ハーモニーはタイプ別に弾き方が異なります。

- ・ ハーモニータイプ001 ~ 005



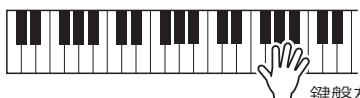
スタイルをオン(32ページ)にして自動伴奏鍵域でコードを弾きながら右手鍵盤を弾く

- ・ ハーモニータイプ006 ~ 012(トリル)



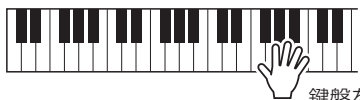
鍵盤を2つ押さえ続ける

- ・ ハーモニータイプ013 ~ 019(トレモロ)



鍵盤を押さえ続ける

- ・ ハーモニータイプ020 ~ 026(エコー)



鍵盤を弾く

● アルペジオタイプ(027 ~ 178)

アルペジオは、スプリット機能(20ページ)のオン/オフで、アルペジオが再生される音色が異なります。

スプリットオフの場合：



メイン音色/デュアル音色にアルペジオが自動再生されます。

スプリットオンの場合：



スプリット音色にのみアルペジオが自動再生されます。

NOTE

- ・ メイン音色として294 ~ 303の音色を選択すると、アルペジオとスプリットの両方が自動的にオンになります。

ハーモニー音量を調節するには

機能設定画面(62ページ、機能番号030)で変更します。

アルペジオベロシティを決める方法を選ぶには

アルペジオベロシティ(強弱)を、自分が鍵盤を弾く強さに合わせるかどうかを選択できます。

機能設定画面(62ページ、機能番号031)で変更します。

ペダルでアルペジオを鳴らし続ける (アルペジオホールド)

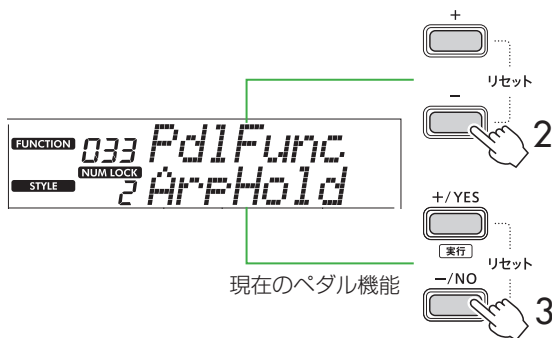
鍵盤から指を離しても、[SUSTAIN]端子に接続したペダル(フットスイッチ)を踏み続けることでアルペジオを鳴らし続けることができます。

- 1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



- 2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「PdIFunc」(63ページ、機能番号033)を表示させます。

画面下段には、現在ペダルに割り当てられている機能が表示されます。



- 3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、「ArpHold」を選びます。

ペダルの機能を通常のサステインペダルに戻したいときは、「Sustain」を選びます。アルペジオホールドとサステインを同時に有効にしたいときは、「Sus+ArpH」を選びます。

- 4 ペダルを使いながら、アルペジオ演奏をしてみましょう。
鍵盤を弾いてアルペジオを鳴らし、ペダルを踏みます。
鍵盤から指を離してもアルペジオは鳴り続けます。
アルペジオを止める場合は、ペダルから足を離します。

アルペジオとソング/スタイルの同期タイミ ングを変更する(アルペジオクオンタイズ)

アルペジオをソング/スタイルと一緒に演奏したい場合、両者の同期がぴったり合うタイミングでアルペジオを開始するのは難しいものです。

この楽器では、アルペジオクオンタイズで各ソング/各スタイルに最適な同期タイミングをあらかじめ設定してあります。

この設定は、機能設定画面(62ページ、機能番号032)で変更できます。

演奏や再生音に効果をかける

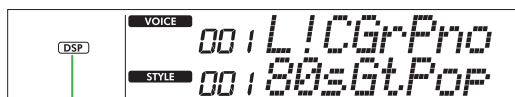
DSP効果をかける

この楽器には、音にデジタル信号処理を施して、音をひずませたり、やまびこのように響かせたりして変化をつけるDSP(デジタルシグナルプロセッサ)が搭載されています。DSPの効果にはさまざまなタイプがあり、DSPをオンにすると現在の音色に最適なものが自動で呼び出されますが、変更することもできます。DSPタイプについては詳しくは、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

1 DSPがオンになっていることを確認します。

画面に **[DSP]** アイコンが表示されていない場合は、**[DSP]** ボタンを押します。

サウンドコントロール



[DSP] DSPがオンのとき表示

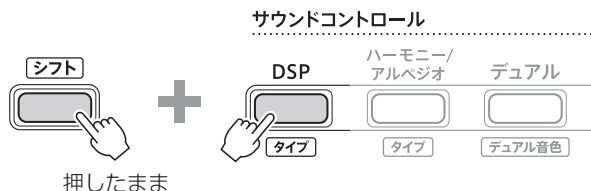
一部の音色は、選ぶだけで自動的にDSPがオンになります。

NOTE

- DSPの効果はメイン音色のみにかかります。デュアル音色(19ページ)やスプリット音色(20ページ)にはかかりません。
- レッスン中はDSPがオフになります。

2 [シフト]ボタンを押したまま、[DSP]ボタンを押します。

画面上段に「DSPTYPE」、下段に現在のDSPタイプが表示されます。



現在選ばれているDSPタイプ

3 [+ / YES] / [- / NO] ボタンを押して、DSPタイプを選びます。

ソング/スタイルカテゴリーボタンで、番号(数値)で設定することもできます。

4 鍵盤を弾いてみましょう。

5 もう一度[DSP]ボタンを押すと、DSPはオフになります。

リバーブタイプを選ぶ

リバーブは、演奏音にコンサートホールで弾いたような残響音を加える効果です。リバーブタイプは、スタイルやソングを選ぶと、最適なものが自動的に選ばれますが、自分で選ぶこともできます。

- 1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



- 2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「Reverb」(62ページ、機能番号023)を表示させます。

画面下段には、現在のリバーブタイプが表示されます。



NOTE

- パネル操作では選べないリバーブタイプ(特定のソングやスタイル専用のタイプ)が使われている場合、画面の表示が「- - -」となることがあります。

- 3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、好きなリバーブタイプを選びます。

鍵盤を弾いて音の響きを確認してみましょう。リバーブタイプの説明については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

リバーブの深さ調整

メイン/デュアル/スプリット音色のそれぞれにかかるリバーブの深さを、上記と同様の方法で調整できます。手順2で呼び出す項目については、機能リスト(60、61ページ)をご覧ください。

- 4 [シフト]ボタンを押して機能設定画面を抜けます。

コーラスタイプを選ぶ

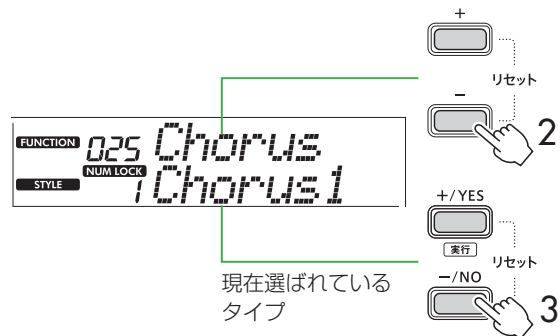
コーラスは、同時に複数のパートを演奏しているかのような厚みを音に加える効果です。コーラスタイプは、スタイルやソングを選ぶと、最適なものが自動的に選ばれますが、自分で選ぶこともできます。

- 1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



- 2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「Chorus」(62ページ、機能番号025)を表示させます。

画面下段には、現在のコーラスタイプが表示されます。



NOTE

- パネル操作では選べないコーラスタイプ(特定のソングやスタイル専用のタイプ)が使われている場合、画面の表示が「- - -」となることがあります。

- 3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、好きなコーラスタイプを選びます。

鍵盤を弾いて音の響きを確認してみましょう。コーラスタイプの説明については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

コーラスの深さ調整

メイン/デュアル/スプリット音色のそれぞれにかかるコーラスの深さを、上記と同様の方法で調整できます。手順2で呼び出す項目については、機能リスト(60、61ページ)をご覧ください。

- 4 [シフト]ボタンを押して機能設定画面を抜けます。

マスター EQを設定してお好みの音にする

本体スピーカーやヘッドホン、外部スピーカーなどで鳴らすサウンドを、お好みの音に設定します。

- 1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



- 2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「MasterEQ」(62ページ、機能番号028)を表示させます。

画面下段には、現在のマスター EQタイプが表示されます。



- 3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、マスター EQタイプを選びます。

マスター EQタイプ

1	Standard (スタンダード)	標準的な設定です(初期設定)。
2	Boost(ブースト)	より迫力のある音質が得られます。 ただし、選択する音色やスタイルなどの種類によっては他のEQ設定より、音がひずみやすくなります。
3	Piano(ピアノ)	ピアノソロ演奏に適した設定です。
4	Bright(ブライツ)	中音域を抑えて音の印象を明るくします。
5	Mild(マイルド)	高音域を抑えて音の印象を柔らかくします。

- 4 [シフト]ボタンを押して機能設定画面を抜けます。

音に余韻を付ける(サステイン)

機能設定の「パネルサステイン」(62ページ、機能番号027)でOnに設定すると、メイン音色/デュアル音色の演奏音に余韻を付けることができます。

また、別売のフットスイッチ(54ページ)を接続すると、ピアノのダンパーペダルのようなサステイン効果をかけることができます。

NOTE

- スプリット音色(20ページ)、スタイル(自動伴奏)(30ページ)に余韻は付きません。
- サステインをオンにしても、余韻がつかない音色もあります。
- 機能設定画面で「パネルサステイン」をOnに設定したまま電源を切ると、次に電源を入れたときもOnの状態が保持されます。

鍵盤を左右に分けて2人で同じ音域で弾く(デュオ)

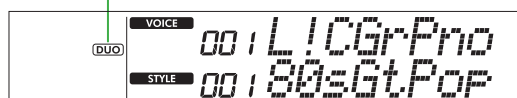
デュオ機能をオンにすると、鍵盤が左奏者側と右奏者側に分かれ、同時に2人が同じ音域で演奏できます。1台の楽器で2人同時に演奏したり、1人がお手本を弾き、もう1人がそれを見ながら練習したりする、といった使い方ができます。

1 [デュオ]ボタンを押してデュオ機能をオンにします。

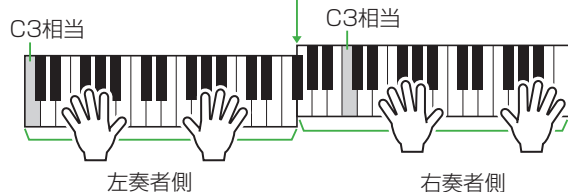
サウンドコントロール



DUO デュオ機能がオンのときに表示



デュオスプリットポイント.....初期設定：66 (F#3)



F#3(66)の鍵盤が境目となり、鍵盤が左奏者側と右奏者側に分かれ、同時に2人が同じ音域で演奏できるようになります。

NOTE

- 左奏者側と右奏者側は、同じ音色(メイン音色)に設定されます。
- デュオスプリットポイントは、機能設定画面(65ページ、機能番号052)で変更できます。デュオ機能使用時は、[シフト]ボタンを押したまま[テンポ/タップ]ボタンを押して設定画面を呼び出すこともできます。

2 必要に応じて、音色を変更します。

音色の選び方は、18ページをご覧ください。

左奏者側の音色のみ変更する

[シフト]ボタンを押したまま、[デュオ]ボタンを押したあと、お好みの音色を選びます。

左奏者側音色選択画面からホーム画面(17ページ)に戻るには、[シフト]ボタンを押します。

NOTE

- 左奏者側と右奏者側で異なる音色で演奏する場合、右奏者側の音色のみが画面上段に表示されます。
- デュオ機能使用時は、レッスン、ハーモニー/アルペジオやデュアル機能など、一部ご使用できない機能があります。

3 左奏者側と右奏者側に分かれて、2人で演奏しましょう。

デュオ機能使用時のスピーカー音

デュオ機能使用時のスピーカー音の鳴らしかたは、機能設定画面(60ページ)で変更できます。

- [機能]ボタンを押して、機能設定画面を表示します。
- [-]ボタンを何度か押して、「DuoType」(65ページ、機能番号057)を呼び出します。
- [+]/[YES]/[-]/[NO]ボタンで下記2つの鳴らし方のいずれかを選びます。

- Balance(バランス)**：左奏者側と右奏者側の演奏音が、左右両方のスピーカーで鳴ります。
- Separate(セパレート、初期設定)**：左奏者側の演奏音が左側のスピーカーで、右奏者側の演奏音が右側のスピーカーで鳴ります。

NOTE

- 「Separate」(セパレート)に設定すると、ステレオサウンドの定位(パン)、左右の音質や音量が、通常と違うように聞こえます。特にキーごとに定位の異なるドラムキットなどではご注意ください。

デュオ機能使用時のサステイン効果

デュオ機能を使って演奏するときも、鍵盤演奏音にサステイン効果(余韻)をかけられます。左奏者側と右奏者側の両方に効果がかかります。

サステイン効果のかけ方について詳しくは、「音に余韻を付ける(サステイン)」(28ページ)をご覧ください。

NOTE

- サステイン効果は左奏者側と右奏者側で別々にかけることはできません。

デュオ機能使用時のスタイル再生

リズムパートの再生のみ可能です。他のパートは再生できません。

デュオ機能使用時の録音

左奏者側と右奏者側の音が同じパートに録音されます。ただし、スタイルがオン(32ページ)の場合、左奏者側はスタイルの伴奏音のみ録音され、鍵盤演奏音は録音されません。

4 デュオ機能をオフにしたい場合は、[デュオ]ボタンをもう一度押します。

リズムや自動伴奏を再生しながら演奏する(スタイル)

自動伴奏(スタイル)とは、コードに合う伴奏(リズム+ベース音+コード音)を自動で付けてくれる機能です。まずは「オートコードプレイ」でスタイルがどんなものかを体感してみましょう。その後、自分でコードを弾いて演奏してみましょう。また、この楽器では、コードを指一本で弾くか(スマートコード)、コードを構成する音をそのまま弾くか(マルチフィンガー)、の2つの方法から選べます(31ページ)。

コードを自動再生する(オートコードプレイ)

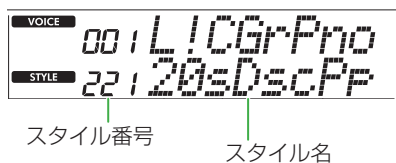
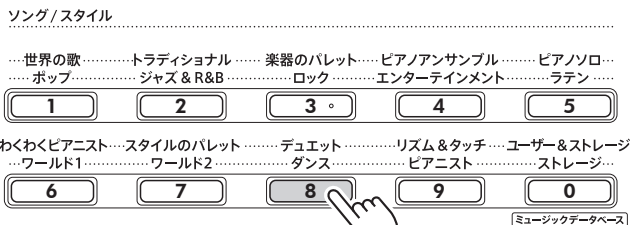
オートコードプレイは、コードを自分で弾くことなく、コード進行(コードの流れ)を体感できる機能です。弾く鍵盤の位置とコード名が画面に表示されますので、コード進行を覚えたり、伴奏に合わせて右手でメロディーを弾いたりしてみましょう。

1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して **STYLE** アイコンを点灯させます。



2 スタイルカテゴリボタンを押して、お好みのスタイルを選びます(13ページ)。

スタイルの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。



NOTE

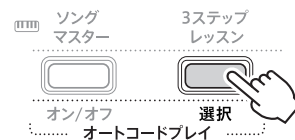
- スタイルは、ほかに2つの方法で選べます。詳しくは、13、14ページをご覧ください。

3 オートコードプレイ[オン/オフ]ボタンを押して、オートコードプレイをオンにします。



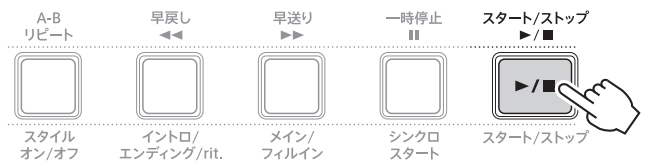
4 必要に応じて、お好みのコード進行を選びます。

オートコードプレイ[選択]ボタンを押して機能設定画面(61ページ、機能番号020)を表示させ、[+ / YES] / [- / NO]ボタンで選びます。



5 [スタート/ストップ]ボタンを押します。

コードが自動的に進行し、そのコードに合った伴奏が鳴ります。



6 伴奏(スタイル)をストップするには、もう一度[スタート/ストップ]ボタンを押します。

スタイルレッスン(動画)

下記ウェブサイトで、スタイルの楽しみ方を紹介しています。下記QRコードはフロントパネル(8ページ 12)にもありますので、ぜひご覧ください。



https://yamaha.io/PSR-E383_TUT_ML_JA

コードの弾き方(フィンガリングタイプ)を設定する

スタイルを再生するとき、自動伴奏鍵域で弾くコードの弾き方をフィンガリングタイプと呼びます。この楽器では、次の2つのフィンガリングタイプから選べます。

● スマートコード(SmartChd) (初期設定)

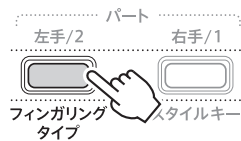
コードのルート音(根音)だけを弾いて自動伴奏を鳴らす弾き方です。スマートコードで自動伴奏を行うには、事前に演奏する曲の調(スタイルキー)を設定する必要があります。

● マルチフィンガー (Multi)

コードを構成する音をそのまま弾いて自動伴奏を鳴らす弾き方です。ただし、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスは、鍵盤を1～3個押さえて簡単に弾くこともできます。

コードについては、「スタイル再生用のコードの押さえ方」(35ページ)をご覧ください。

1 [フィンガリングタイプ]ボタンを押します。



フィンガリングタイプ



2 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、「SmartChd」または「Multi」を選びます。

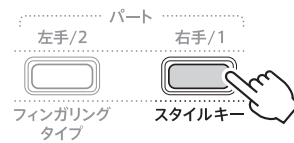
3 [シフト]ボタンを押して、フィンガリングタイプの設定を終了します。

スタイルキーを設定する

フィンガリングタイプでスマートコードを選択した場合、演奏前に、楽譜に記載されたシャープ(♯)やフラット(♭)の数から、弾く曲の「調」を設定します。この調のことを「スタイルキー」と言います。スタイルキーは、以下の手順で設定します。

1 [スタイルキー]ボタンを押します。

現在のスタイルキーが表示されます。



スタイルキー



2 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、楽譜に合ったスタイルキーを設定します。

たとえば、下記の楽譜を弾きたい場合は、スタイルキーを「FL2(フラット♭2個) B♭/G min」に設定します(36ページ)。



3 [シフト]ボタンを押して、スタイルキーの設定を終了します。

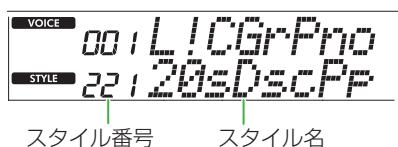
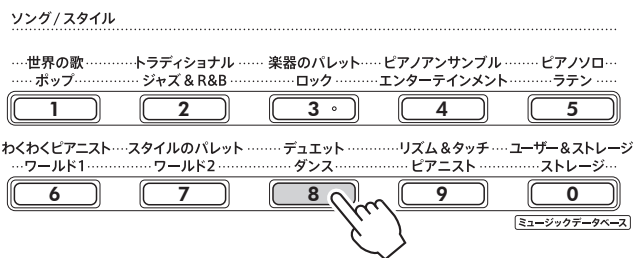
コードを自分で弾きながら演奏する

1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して **STYLE** アイコンを点灯させます。



2 スタイルカテゴリボタンを押して、お好みのスタイルを選びます(13ページ)。

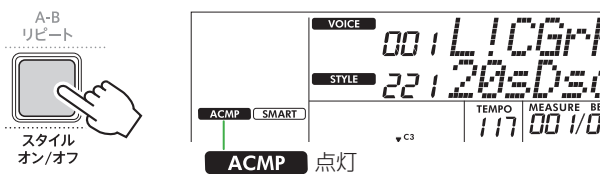
スタイルの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。



NOTE

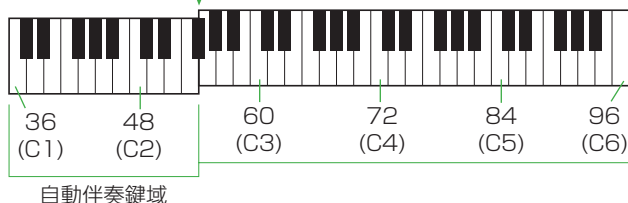
- スタイルは、ほかに2つの方法で選べます。詳しくは、13、14ページをご覧ください。

3 [スタイル オン/オフ]ボタンを押して、スタイル(自動伴奏)をオンにします。



この操作により、スプリットポイント(54 : F#2)より左側の鍵盤が、コードだけを認識する「自動伴奏鍵域」になります。

スプリットポイント.....初期設定 : 54 (F#2)



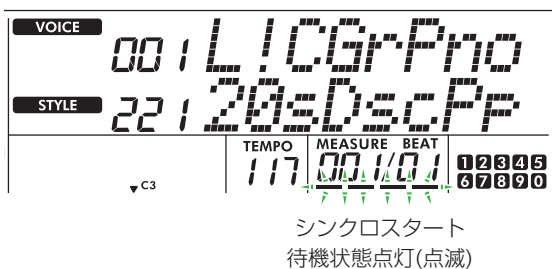
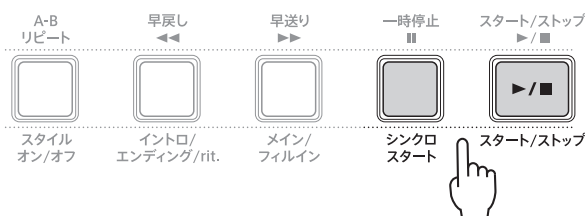
スプリットポイントは、[シフト]ボタンを押したまま[テンポ/タップ]ボタンを押すと、機能設定画面(60ページ、機能番号003)で変更できます。

NOTE

- 強弱メーター (17ページ)は自動伴奏鍵域の演奏には反応しません。

4 [スタート/ストップ]ボタン、または[シンクロスタート]ボタンを押します。

- [スタート/ストップ]ボタンを押したとき
リズムパートだけがスタートします。
- [シンクロスタート]ボタンを押したとき
鍵盤を弾くと同時にスタイルがスタートする(シンクロスタート)になります。

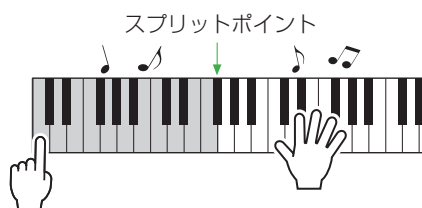


5 自動伴奏鍵域でコード(ルート音)を弾いて、スタイルをスタートさせます。

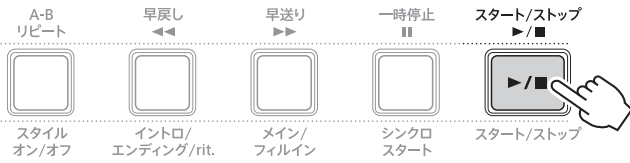
左手でいろいろなコードを弾き、右手でメロディーを弾いてみましょう。

フィンガリングタイプ(31ページ)がスマートコードのときは、左手でコードのルート音のみを弾きます。マルチフィンガーのときは、コードを構成する音をそのまま弾きます。

コードの弾き方について詳しくは、「スタイル再生用のコードの押さえ方」(35ページ)をご覧ください。



6 [スタート/ストップ]ボタンを押してスタイルをストップします。



スタイルは、セクション(伴奏パターン)を切り替えて演奏に変化を付けられます。詳しくは右記の「スタイルに変化を付ける」をご覧ください。

リズムパートだけを鳴らすには

手順3で[スタイルオン/オフ]ボタンを押さずに、[スタート/ストップ]ボタンを押します。リズムパートだけを再生して、全鍵域を使ってメロディー演奏ができます。

NOTE

- 「ピアニスト」カテゴリーのスタイル(スタイル番号252～260)と「エセアリアルムービー」(スタイル番号090)はリズムパートがないためリズムは鳴りません。この場合、スタイル(自動伴奏)をオンにして、自動伴奏鍵域でコードを弾いたときのみ、伴奏が再生されます。

テンポを変更する

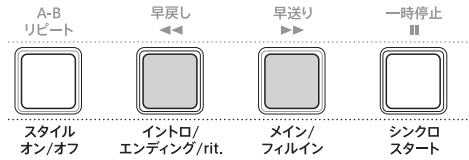
「テンポを変える」(15ページ)をご覧ください。

スタイルの音量を調節する

スタイルの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定(61ページ、機能番号017)で調節します。

スタイルに変化を付ける

スタイルは、下記セクション(伴奏パターン)でできています。セクションを切り替えて、演奏を盛り上げてみましょう。



● イントロ

演奏開始時に使います。イントロ再生が終了するとメインに移ります。イントロの小節数はスタイルによって異なります。

● メイン

曲のメイン部分の演奏で使います。ほかのセクションボタンを押すまで、くり返し再生されます。A、Bの2種類のバリエーションがあります。

● フィルイン

メインのA、Bが切り替わるときに自動的に挿入されます。

● エンディング

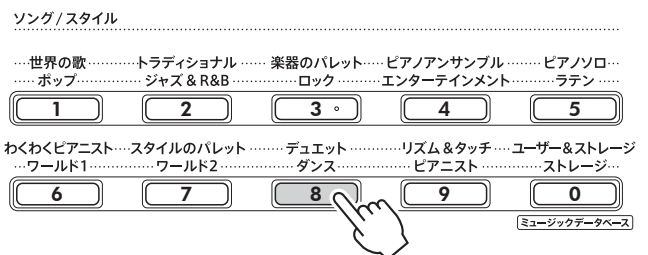
演奏の終わりに使います。エンディングの再生が終わると同時に、スタイル再生も終了します。エンディングの小節数はスタイルによって異なります。

1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して **STYLE** アイコンを点灯させます。



2 スタイルカテゴリーボタンを押して、お好みのスタイルを選びます(13ページ)。

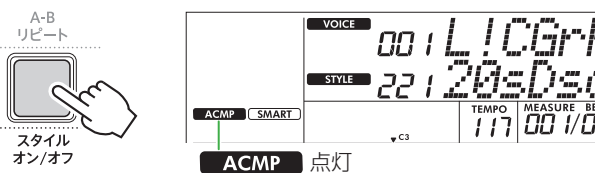
スタイルの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。



NOTE

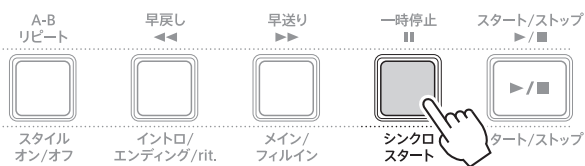
- スタイルは、ほかに2つの方法で選べます。詳しくは、13、14ページをご覧ください。

3 [スタイル オン/オフ]ボタンを押して、スタイル(自動伴奏)をオンにします。



4 [シンクロスタート]ボタンを押して、シンクロスタートをオンにします。

鍵盤を弾くと同時に、スタイルがスタートします。



5 [メイン/フィルイン]ボタンを押して、メインAかBを選びます。



選んだセクションMAIN AまたはMAIN Bが表示されます

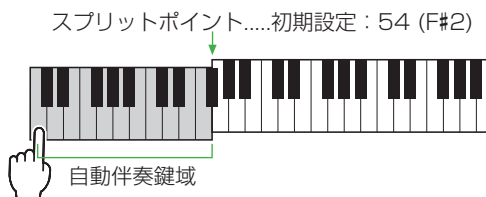
6 [イントロ/エンディング/rit.]ボタンを押します。



これで、イントロ→メインAの順でスタイル再生を始める準備ができました。

7 自動伴奏鍵域でコード(ルート音)を弾くと、スタイルのイントロがスタートします。

コードの押さえ方は、35ページをご覧ください。



8 イントロが終わったら、曲の進行に合わせて演奏します。

左手でコード、右手でメロディーを弾きます。また、必要に応じて[メイン/フィルイン]ボタンを自由に押します。フィルインをはさんで、メインセクションA/Bが切り替わります。



9 [イントロ/エンディング/rit.]を押します。



エンディングに切り替わり、エンディングの再生終了と同時にスタイル再生も終了します。エンディング再生中にもう1度[イントロ/エンディング/rit.]ボタンを押すと、リタルダンドして(だんだん遅くなって)スタイルは終了します。




































スタイル再生用のコードの押さえ方

ここでは、初めてコードを弾く方のために、よく使われるコードの自動伴奏鍵域での押さえ方をご紹介します。

コードの押さえ方は、フィンガリングタイプによって押さえ方が異なります。

- マルチフィンガーの場合は、下の表のとおりに弾きます。
- スマートコードの場合は、ルート音だけ(下の表であれば「★」)を弾きます。実際に演奏されるコード(メジャー/マイナーなどは、設定中のスタイルキーに応じて、ルート音を弾くだけで自動で呼び出されます。

★がルート音(根音)です。

メジャー	マイナー	セブンス	マイナーセブンス	メジャーセブンス
C 	Cm 	C7 	Cm7 	CM7 
D 	Dm 	D7 	Dm7 	DM7 
E 	Em 	E7 	Em7 	EM7 
F 	Fm 	F7 	Fm7 	FM7 
G 	Gm 	G7 	Gm7 	GM7 
A 	Am 	A7 	Am7 	AM7 
B 	Bm 	B7 	Bm7 	BM7 

- コード押鍵はその転回形も受け付けます。ただし、以下のコードを例外とします。
m7、m7b5、m7(11)、6、m6、sus4、aug、dim7、7b5、6(9)、sus2
- 7sus4は、省略した場合のみ転回形は受け付けません。
- コードとして成立しない鍵盤が押された場合、画面にコード名は表示されません。
また、そのときのスタイル演奏は、リズムなど一部のパートだけになります。

マルチフィンガーでは、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスは、鍵盤を1～3個押さえて簡単に弾くこともできます。

《簡単な押さえ方 Cの例》



メジャー (M)

ルート音(★)を押さえてください。



マイナー (m)

ルート音と、ルート音に一番近い左側の黒鍵を同時に押さえてください。



セブンス(7)

ルート音と、ルート音に一番近い左側の白鍵を同時に押さえてください。



マイナーセブンス(m7)

ルート音と、ルート音に一番近い左側の黒鍵と白鍵を同時に押さえてください。

スマートコードで再生されるコード

フィンガリングタイプがスマートコードの場合、楽譜の調号に基づきスタイルキーを設定(31ページ)すると、自動伴奏鍵域で各鍵盤を押したときに以下のコードが鳴ります。

楽譜の 調号	スタイルキー (画面表示)	ルート音											
		C#/D♭		D#/E♭		F#/G♭		G#/A♭		A#/B♭			
		C	D	E	F	G	A	B					
	FL7 Cb/A♭ min	Cdim	D♭m	Ddim7	E♭1+5	E	Fdim	G♭7	G	A♭m	A	B♭m7♭5	B
	FL6 Gb/E♭ min	Cdim	D♭7	D	E♭m	E	Fm7♭5	G♭	Gdim	A♭m	Adim7	B♭1+5	B
	FL5 D♭/B♭ min	Cm7 ♭5	D♭	Ddim	E♭m	Edim7	F1+5	G♭	Gdim	A♭7	A	B♭m	B
	FL4 A♭/F min	C1+5	D♭	Ddim	E♭7	E	Fm	G♭	Gm7♭5	A♭	Adim	B♭m	Bdim7
	FL3 E♭/C min	Cm	D♭	Dm7♭5	E♭	Edim	Fm	F♯dim7	G1+5	A♭	Adim	B♭7	B
	FL2 B♭/G min	Cm	C♯dim7	D1+5	E♭	Edim	F7	G♭	Gm	A♭	Am7♭5	B♭	Bdim
	FL1 F/D min	C7	D♭	Dm	E♭	Em7♭5	F	F♯dim	Gm	G♯dim7	A1+5	B♭	Bdim
	調号0 個 SP0 C/A min (初期設定)	C	C♯dim	Dm	D♯dim7	E1+5	F	F♯dim	G7	A♭	Am	B♭	Bm7♭5
	SP1 G/E min	C	C♯dim	D7	E♭	Em	F	F♯m7♭5	G	G♯dim	Am	A♯dim7	B1+5
	SP2 D/B min	C	C♯m7♭5	D	D♯dim	Em	Fdim7	F♯1+5	G	G♯dim	A7	B♭	Bm
	SP3 A/F♯ min	Cdim7	C♯1+5	D	D♯dim	E7	F	F♯m	G	G♯m7♭5	A	A♯dim	Bm
	SP4 E/C♯ min	C	C♯m	D	D♯m7♭5	E	Fdim	F♯m	Gdim7	G♯1+5	A	A♯dim	B7
	SP5 B/G♯ min	Cdim	C♯m	Ddim7	D♯1+5	E	Fdim	F♯7	G	G♯m	A	A♯m7♭5	B
	SP6 F♯/D♯ min	Cdim	C♯7	D	D♯m	E	Fm7♭5	F♯	Gdim	G♯m	Adim7	A♯1+5	B
	SP7 C♯/A♯ min	Cm7♭5	C♯	Ddim	D♯m	Edim7	F1+5	F♯	Gdim	G♯7	A	A♯m	B

NOTE

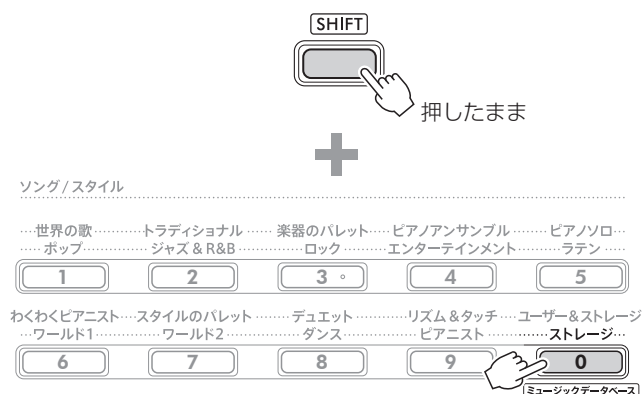
- ・「1+5」のコードは、楽器の画面では、メジャーと同じ表示になります。
- ・コード名は楽器の画面表示のものです。一部市販楽譜の表記と異なります。

ミュージックデータベースを使う

自分の好きなジャンルの音楽を演奏するための最適なスタイルや音色が分からない場合は、この機能を活用しましょう。好きな音楽ジャンルを選ぶだけで、最適なパネル設定が呼び出されます。

1 [シフト]ボタンを押したまま、[ストレージ]カテゴリボタンを押します。

画面にミュージックデータベース名が表示され、シンクスタートとスタイルがオンになります。



NUM LOCK ソング/スタイルカテゴリボタンを数字ボタンとして使えるようになります。



現在選ばれている
ミュージックデータベース

2 [+ / YES] / [- / NO] ボタンを押すか、ソング/スタイルカテゴリボタンでMDB番号を押して、弾きたい曲のイメージに合うミュージックデータベースを選びます。

音色やスタイルが自動で設定されます。どのようなミュージックデータベースがあるかは、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

3 自動伴奏鍵域でコードを弾いて、スタイルをスタートさせます。

4 [スタート/ストップ]ボタンを押してスタイルをストップします。

スタイルファイルの登録

スタイル番号261～270のいずれかに、外部で作られたスタイルファイル(.STY)を登録し、内蔵スタイルと同じように演奏できます。

詳しくは、「コピーしたファイルを確認する」(58ページ)をご覧ください。

ソングを再生する

ソングとは通常「歌」を意味しますが、この楽器では曲データを指します。この楽器に内蔵されているソングは、聞いて楽しむだけでなく、レッスン機能など、この楽器に備わっている機能と組み合わせて使えます。

● ソングカテゴリー

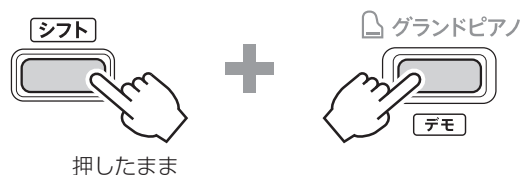
ソングは、それぞれの特徴によってカテゴリー分けされています。

ソング番号	ソングカテゴリー	特徴
001 ~ 003	デモ	この楽器で再現できるいろいろな音の特徴を表したデモ曲です。
004 ~ 020	世界の歌	歌い継がれる世界の民謡や、よく知られたクラシックの曲です。
021 ~ 034	トラディショナル	誰もが一度は聞いたことがある曲です。
035 ~ 043	楽器のパレット	ピアノ以外の楽器が主役の曲です。
044 ~ 059	ピアノアンサンブル	ソロだけでなく、アンサンブルで弾いても素敵なピアノ曲です。
060 ~ 066	ピアノソロ	よく知られたピアノ曲です。
067 ~ 082	わくわくピアニスト	ソングマスターレッスン(44ページ)で使う曲です。1つの曲に、やさしい版とチャレンジ版の2つのバリエーションがあります
083 ~ 102	スタイルのパレット	スタイル(自動伴奏、32ページ)と一緒に楽しめる曲です。
103 ~ 115	デュエット	2人で弾いて楽しめる曲です。1人でも弾けるアレンジになっています。
116 ~ 125	リズム&タッチスタディ	鍵盤を弾くタイミングと弾く強さ(タッチ)を練習するための曲です。
126 ~	ユーザー&ストレージ	自分の演奏を録音したユーザーソング5曲(126 ~ 130、49ページ)と、コンピューターから楽器へコピーしたソング(131 ~)です。楽器へコピーできるソングの数は、楽器の空き容量により異なります。コピーする手順については、56ページをご覧ください。

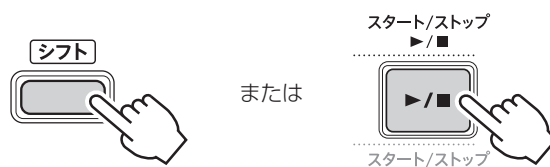
デモソングを再生する

[シフト]ボタンを押したまま、[グランドピアノ]ボタンを押します。

デモソング(ソング番号001 ~ 003)が順番に連続再生されます。



ストップしたいときは、[シフト]ボタンまたは[スタート/ストップ]ボタンを押します。



NOTE

- デモソング以外のソングも連続再生することができます。詳しくは39ページをご覧ください。

ソングを1曲選んで再生する

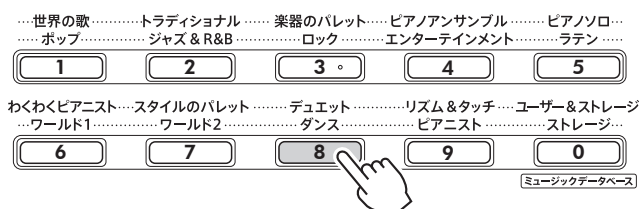
- 1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して、**SONG** アイコンを点灯させます。



- 2 ソングカテゴリーボタンを押して、好みのソングを選びます(13ページ)。

ソングの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

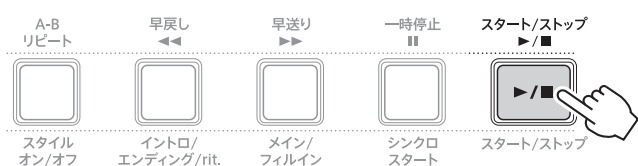
ソング/スタイル



NOTE

- ソングは、ほかに2つの方法で選べます。詳しくは、13、14ページをご覧ください。

- 3 [スタート/ストップ]ボタンを押して、ソングを再生します。



- 4 ソング再生をストップするには、もう一度[スタート/ストップ]ボタンを押します。

テンポを変更する

「テンポを変える」(15ページ)をご覧ください。

ソングの音量を調節する

ソングの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定(61ページ、機能番号021)で調節します。

ソングを連続再生する

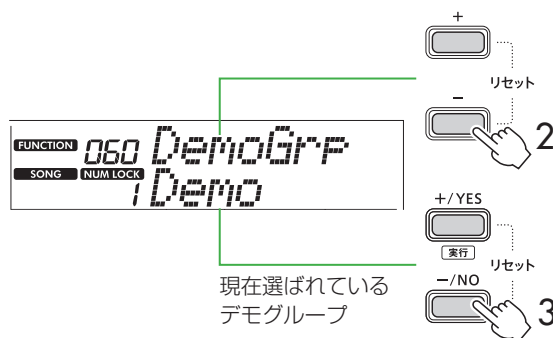
ソングを連続再生するには、[シフト]ボタンを押したまま、[グランドピアノ]ボタンを押します。初期設定では、デモソング3曲だけが連続再生されますが、連続再生の対象を変えることができます。

- 1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



- 2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「DemoGrp」(65ページ、機能番号060)を表示させます。

画面下段には、現在選ばれているデモグループが表示されます。



- 3 [+]/[YES]/[-]/[NO]ボタンを押して、連続再生させたいデモグループを以下から1つ選びます。

1	Demo(デモ)	内蔵ソング001 ~ 003 (初期設定)
2	Preset (プリセット)	内蔵ソング001 ~ 115
3	User(ユーザー)	ユーザーソング全曲(126 ~ 130)
4	Storage (ストレージ)	コンピューターから楽器にコピーしたソング全曲(131 ~)

NOTE

- User、Storageにデータがない場合は、Demoが流れます。

- 4 [シフト]ボタンを押したまま、[グランドピアノ]ボタンを押します。

選択したグループの曲が、連続再生されます。再生をストップさせたいときは、もう一度[シフト]ボタンを押すか、[スタート/ストップ]ボタンを押します。

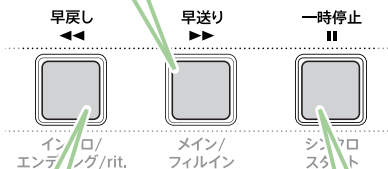
ランダムな順番で再生する

デモグループが「Demo(デモ)」以外に設定されている場合は、再生の順番を番号順とランダムな順番とで切り替えることができます。[機能]ボタンを押したあと、[+]/[-]ボタンを押して、機能設定「PlayMode(プレイモード)」(65ページ、機能番号061)を表示させ、「Normal(ノーマル)」か「Random(ランダム)」を選びます。

ソングを早送り、早戻し、一時停止する

[早送り]ボタン

再生中に押すと、ソングを早送りします。停止中に押すと小節番号が進みます。



[早戻し]ボタン

再生中または停止中に押すと、小節番号が戻ります。

[一時停止]ボタン

ソングを一時停止します。もう一度押すと、一時停止した位置から再生がスタートします。

NOTE

- A-Bリピート(41ページ)が設定されている場合、早送りや早戻しはその設定範囲内でのみ可能です。
- ソングの連続再生機能(39ページ)を使ってソングを鳴らしているときは、[早戻し]、[早送り]、[一時停止]ボタンは使えません。

内蔵ソングのメロディー音色を変更する

内蔵ソングのメロディー音色を、好みの音色に変えることができます。

- 1 好きなソングを選びます(13ページ)。
- 2 好きな音色を選びます(18ページ)。
- 3 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。

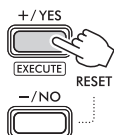


- 4 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「MelodyVc」(61ページ、機能番号022)を表示させます。画面に「YES ?」という表示が出ます。



- 5 [+ / YES]ボタンを押します。

「SONG MELODY VOICE」のメッセージがスクロール表示されて、ソングのメロディー音色が手順2で選んだ音色に変わります。音色が変わったあと、機能設定画面に戻ります。



- 6 [シフト]ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。

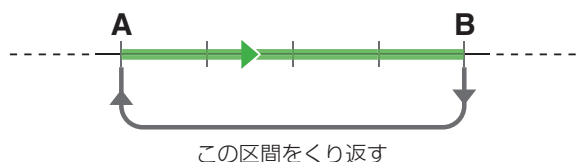
- 7 [スタート/ストップ]ボタンを押して、メロディー音色が変わったソングを聞いてみましょう。

NOTE

- 他のソングを選ぶと、変更したメロディー音色はリセットされます。
- 「リズム&タッチスタディ」カテゴリーのソングやユーザーソング(49ページ)のメロディー音色は変えられません。

ソングの一部をくり返して再生する (A-Bリピート)

ソングのある特定の範囲(A点とB点)を小節単位で指定して、くり返し再生できます。



- 1 ソング再生をスタートします(39ページ)。
- 2 ソングを再生しながら、くり返し再生の開始位置(A点)にしたいポイントに来たら、[A-B リピート]ボタンを押します。
- 3 くり返し再生の終了地点(B点)にしたいポイントに来たら、もう一度[A-B リピート]ボタンを押します。
これで、A-B間のくり返し再生(リピート再生)が始まります。



NOTE

- 停止中でも[早戻し]、[早送り]ボタンで小節を設定できます。
- くり返しの開始位置(A)を曲の先頭に指定したい場合は、ソングをスタートする前に[A-B リピート]ボタンを押して設定します。

- 4 くり返し設定を取り消すには、[A-B リピート]ボタンを押します。

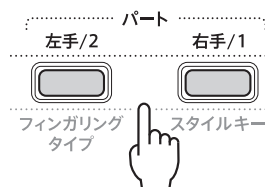
NOTE

- くり返し設定は、他のソングを選んでも取り消せません。

- 5 ソング再生をストップするには、[スタート/ストップ]ボタンを押します。

ソングのパートをオン/オフする

ソングデータは、2つのパートで構成されています。各パートは、ソング再生中に該当ボタンを押すことで、個別にオン/オフができます。



- ユーザーソング(ソング番号126 ~ 130、49ページ)が選択されている場合

L/Rは、該当のパートに演奏データがあるときに画面に表示されます。演奏データがないとき、または、オフのときには表示されません。

- ユーザーソング以外が選択されている場合

L/Rは、演奏データの有無に関係なく、常に画面に表示されます。

LおよびRパートをオン/オフすることにより、オンのパートを聞きながら、もう一方のオフのパートを練習できます。

NOTE

- パートオン/オフの状態は、他のソングを選ぶとリセットされます。

コンピューターからソングファイルをコピーする

コンピューターと楽器をUSBケーブルで接続すると、コンピューター上のソングファイルを楽器にコピーして、楽器で再生できます。

詳しくは、「ソングファイル、スタイルファイル、バックアップファイルのコピーする」(56ページ)をご覧ください。

鍵盤を弾くタイミングと強さを意識して練習する(リズム&タッチスタディ)

ソング番号116～125の「リズム&タッチスタディ」カテゴリーのソングを再生すると、鍵盤を弾くタイミングと弾く強さ(タッチ)を練習できます。

- 1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して **SONG** アイコンを点灯させます。

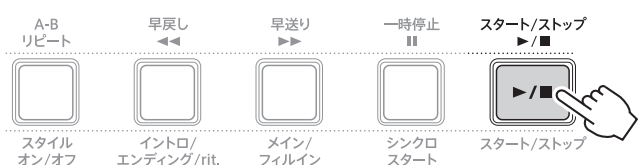


- 2 ソングカテゴリーボタンのうち、[リズム&タッチ]ボタンを押します。

タッチレスポンスが「Off(オフ)」に設定されている場合は、それ以外の設定に変更しておきます(21ページ)。



- 3 [スタート/ストップ]ボタンを押して、ソングを再生します。

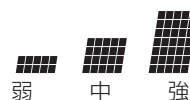


- 4 画面に表示されるマークの動きに合わせて鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾くタイミングと強さが正しければ、どの鍵盤を弾いてもかまいません。

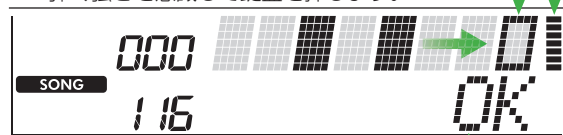
マークは、右に向かって流れてきます。

また、鍵盤を弾く強さ(タッチ)によって大きさの異なる3つのマークが表示されます。流れてくるマークの大きさに合った強さで弾いてみましょう。



鍵盤を弾いた強さはこのメーター表示で分かります。

マークがこの白い四角に重なるときに、弾く強さを意識して鍵盤を押します。



弾くタイミングのみ合っている場合は「OK」、弾くタイミングと強さの両方が合っている場合は「Good!」と表示されます。

途中でソング再生をストップしたいときは、[スタート/ストップ]ボタンを押します。

- 5 ソング再生が終わると、練習結果が点数とメッセージで画面に表示されます。

Excellent Play!
Good Timing!
Try Again

レッスン機能を使って練習する

この楽器には、内蔵ソングを弾けるようになるためのさまざまなレッスン機能があります。ご自分に合ったレッスンを選んでみましょう。

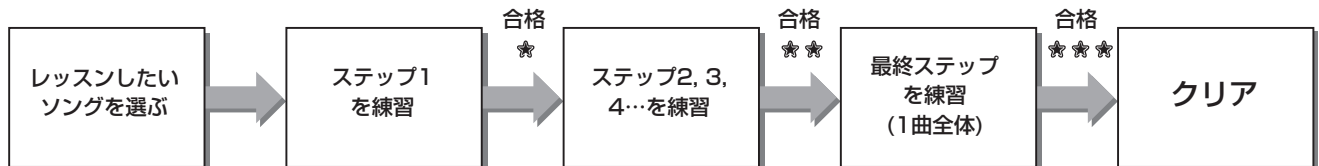
ウェブサイト上のソングブック(本書2ページ)に内蔵ソングの楽譜が掲載されていますので、ぜひご活用ください。

ソングマスター

(44ページ)

弾けるようになるためのポイントを取り出して、ひとつずつ楽しく練習していきます。

はじめて鍵盤に触れる方には、「ソングマスター」がおすすめです。



それぞれのソングは、複数のステップで構成されています。1ステップごとに採点され、60点以上で合格です。合格すると自動的に次のステップに進みます。

合格結果は★で記録されます。合格できなくても、次のステップに進んだり、ほかのステップを選んで練習したりできます(45ページ)。不合格だったステップは、あとから練習しなおすこともできます。

3ステップレッスン(お手本、タイミング、マイペース)

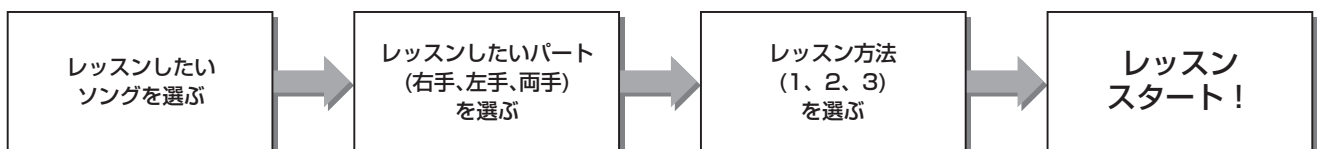
(47ページ)

練習したいソングを、右手、左手、両手別にレッスンできます。

レッスン方法は3段階です。

レッスンしたいパートを、1曲を通して練習したい方におすすめです。

- **レッスン1(お手本)** まずは、お手本を聞くレッスンです。お手本を聞いて音を覚えましょう。
- **レッスン2(タイミング)** タイミングを合わせて鍵盤を弾くレッスンです。タイミングが合っていれば、どの鍵盤を弾いても正しい音が鳴ります。
- **レッスン3(マイペース)** 正しい鍵盤を弾くレッスンです。正しい鍵盤を弾くまで曲は進まず待ってしてくれます。



お手本、タイミング、マイペースは、「ソングマスター」と一緒に使うことができます。

「ソングマスター」を練習していて難しいときは、お手本を聞いてみたり、タイミングだけを練習したり、正しい鍵盤を弾くまで曲が待ってくれるようにできます。

「ソングマスター」と一緒に使った場合は、合格結果は表示されません。

ソングマスター

ソングマスターでは、曲をマスターするために必要なフレーズを練習します。大事なポイントだけを取り出してステップごとに練習するので、1曲を効率よく学べます。

1 ソングブックをウェブサイトからダウンロードします (2ページ)。

練習するパートは、ステップごとにあらかじめ指定されています。総ステップ数は曲によって異なります。詳しくはソングブックをご覧ください。

NOTE

- 内蔵ソング004 ~ 115はすべて練習に使えます。特に067 ~ 082の「わくわくピアニスト」カテゴリーの曲は、それぞれのステップが曲仕立てになっており、伴奏付きで楽しく練習できます。

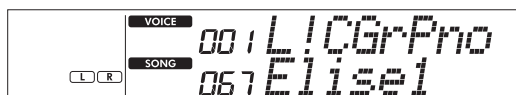
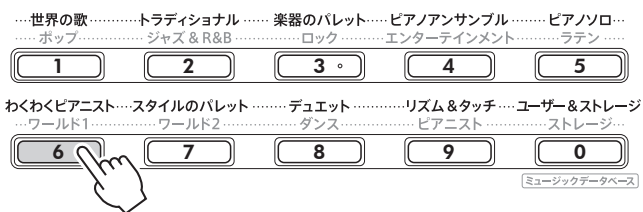
2 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して、**SONG** アイコンを点灯させます。



3 ソングカテゴリーボタンを押して、レッスンしたいソングを選びます (13ページ)。

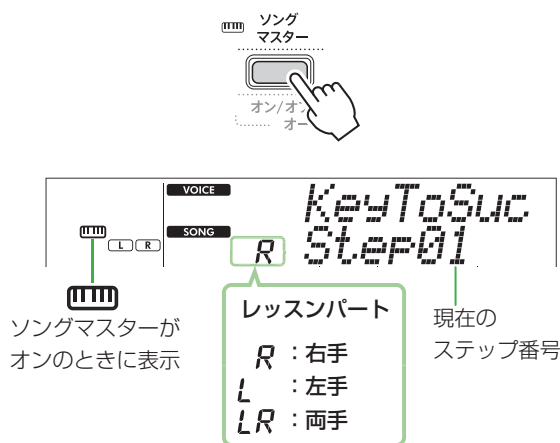
ソングの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。ここでは、[わくわくピアニスト]カテゴリーボタンを押して、「067 エリーゼのために(やさしい)」を選んでみましょう。

ソング/スタイル



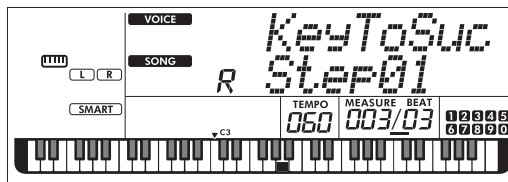
4 [ソングマスター]ボタンを押して、ソングマスターをオンにします。

鍵盤アイコン、「Step01」、およびレッスンパート(「R」、「L」または「LR」)が画面上に表示されます。すでにいくつかのステップを合格済みの場合は、その次のステップ番号が表示されます。画面に表示されたステップでなく、別のステップを選んで練習することもできます。ステップの選び方は、「特定のステップを選んで練習する」(45ページ)をご覧ください。



5 [スタート/ストップ]ボタンを押して、レッスンを始めます。

「カッ、コッ、カ」というカウント音が弾き始めの合図です。ソングブックの楽譜や画面に表示された鍵盤表示を見ながら、曲に合わせて弾いてみましょう。



NOTE

- 楽しくレッスンしていただくため、各ソングには特別なアレンジが施されています。このため、再生テンポが原曲よりも遅い場合があります。

6 ステップの評価を確認します。

1ステップ弾き終わると、演奏が評価され、100点満点での点数が画面に表示されます。



60～100点のときは合格です。次のステップに自動的に進みます。
0～59点のときは同じステップに再挑戦です。自動的に同じステップが再生されます。

NOTE

- 指定された練習パートが両手の場合、右手だけや左手だけでレッスンしても合格にはなりません。「Left Part is correct!」(左手パートは良く弾けました)などの評価のみが表示されます。

7 ステップ02、03、04・・・を実行します。

すべての曲に、1曲をとおして弾く仕上げのステップがあります。すべてのステップに合格するとソングマスターはオフになり、レッスンは終わります。

特定のステップを選んで練習する

不合格だったステップをあとから練習したり、苦手なステップをくり返して練習したりしたいときは、[+/YES]/[-/NO]ボタンを押してお好みのステップを選びます。

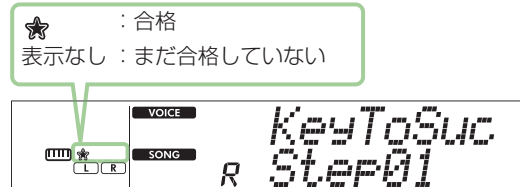
レッスンを中断するには、[スタート/ストップ]ボタンを押します。

8 レッスンを止めるには、[ソングマスター]ボタンをもう一度押します。

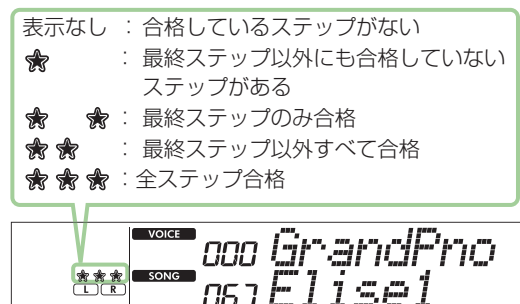
合格結果を確認する

画面上の★を見れば、選んだステップやソングが合格済みかどうか、一目でわかります。

● ステップ選択時



● ソング選択時



合格結果を消去する

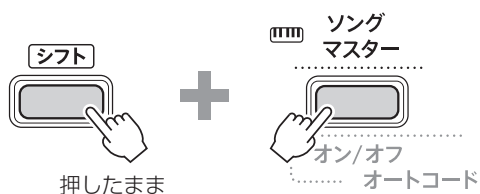
合格結果の記録は消去できます。

● すべてのステップの合格結果を消去する

1 ソングマスターがオフの状態、合格結果を消去したいソングを選びます。

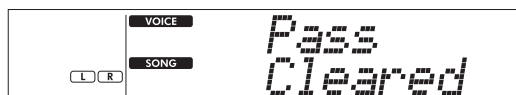
2 [シフト]ボタンを押したまま、[ソングマスター]ボタンを押します。

消去を確認する画面が表示されます。



3 [+ / YES]ボタンを押します。

画面に「Cleared」と表示されたら、消去完了です。



● 特定のステップの合格結果を消去する

1 ソングマスターがオフの状態、合格結果を消去したいソングを選びます。

2 [ソングマスター]ボタンを押して、ソングマスターをオンにします。

3 [+ / YES] / [- / NO]ボタンを押して、結果を消去したいステップを選びます。

4 [シフト]ボタンを押したまま、[ソングマスター]ボタンを押します。

消去を確認する画面が表示されます。

5 [+ / YES]ボタンを押します。

画面に「Cleared」と表示されたら、消去完了です。

3ステップレッスン (お手本、タイミング、マイペース)

● レッスン1 お手本(LISTEN)

レッスン1では鍵盤を弾く必要はありません。選んだパートのお手本メロディーが鳴るので、よく聞いて覚えましょう。

● レッスン2 タイミング(TIMING)

レッスン2では鍵盤を弾くタイミングを練習します。タイミングが合っていれば、どの鍵盤を弾いても、画面に表示される正しい音が鳴ります。

● レッスン3 マイペース(WAITING)

レッスン3では画面に表示される音を正しく弾けるよう練習します。正しい鍵盤を弾くまで、再生が進まず待ってくれます。再生テンポも弾く人のペースに合わせて変わるので、マイペースで練習できます。

NOTE

- レッスン3「マイペース」で再生テンポを変化させたくないときは、機能設定ユアテンポ(63ページ、機能番号039)をOffにします。

1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して、**SONG** アイコンを点灯させます。



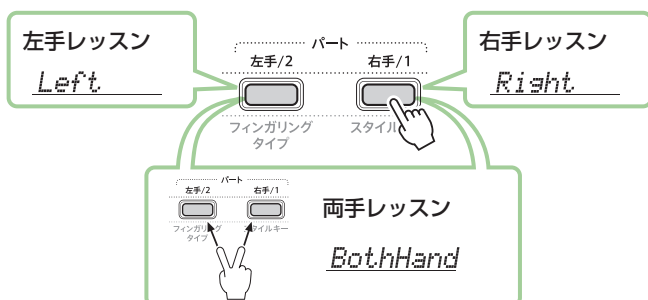
2 ソングカテゴリーボタンを押して、レッスンしたいソングを選びます(13ページ)。

ソングの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。

NOTE

- コンピューターからコピーしたソング(56ページ)は3ステップレッスンに使えますが、ユーザーソング(49ページ)やデモソング(38ページ)は使えません。

3 [右手/1]ボタン、[左手/2]ボタンのどちらか、または両方を押して練習したいパートを選びます。



NOTE

- [左手/2]ボタンを押して「No LPart」が表示される場合、選んだソングには左手パートが含まれていません。

4 [3ステップレッスン]ボタンを押して、レッスン曲を再生します。

[3ステップレッスン]ボタンを押すたびに、レッスン番号は「1 お手本(LISTEN)」→「2 タイミング(TIMING)」→「3 マイペース(WAITING)」→「オフ」(ソング選択画面)→「1 お手本(LISTEN)」…の順番で切り替わり、画面に表示されます。



NOTE

- レッスン中でも、[3ステップレッスン]ボタンを押して「1 お手本」、「2 タイミング」、「3 マイペース」を切り替えられます。また、[スタート/ストップ]ボタンでレッスンを止めることもできます。
- レッスン曲を再生すると、メイン音色は、自動的に「000」(ワンタッチセッティング)(18ページ)に切り替わります。また、レッスン中は、デュアル音色とスプリット音色を使えません。
- 曲のメロディー音色を変える(40ページ)と、選んだ音色によっては画面に表示されている鍵盤の位置がオクターブ単位ですることがあります。

5 レッスン曲の再生が終了すると、採点結果が表示されます。

「2 タイミング」、「3 マイペース」で、1曲レッスンを終了したとき、レッスン結果を採点します。

Excellent! ■■■■■■■■■■

Very Good! ■■■■■■■■

Good ■■■■■■

OK ■■■■

評価の表示後、ソングが最初から自動的にスタートし、再びレッスンが始まります。

6 レッスンを終了するには、[スタート/ストップ]ボタンを押します。

ガイド音をオフにする

この楽器には、「ガイド音」機能が搭載されています。レッスン3「マイペース」中、弾くべきタイミングに正しい鍵盤が押されないと、少しあとに正しい鍵盤が鳴ってガイドしてくれる機能です。正しく鍵盤を押すと、ガイド音は鳴らずに再生が進みます。ガイド音を鳴らしたくない場合は、次の手順でこの機能をオフにしてください。

1 機能ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。

2 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「Guide」(63ページ、機能番号040)を表示させます。

画面下段には、現在のガイド音の設定が表示されます。



3 [-/NO]ボタンを押して、「Off」を選びます。

初期設定値は「On」(ガイド音が鳴る)です。

NOTE

- レッスン中は設定できません。

ガイド音は、「スタイルのパレット」カテゴリーのソングの左手パートと、43番のソングを除く内蔵ソングすべてで使えます。

ソングマスターと3ステップレッスンを組み合わせる

47ページの「1 お手本」、「2 タイミング」、「3 マイペース」とソングマスター(44ページ)と組み合わせるレッスンができます。

1 ソングマスターをオンにします。

44ページの操作2～4をご覧ください。

2 [+]/[YES]/[-/NO]ボタンで好きなステップを選び、[3ステップレッスン]ボタンを何度か押して、レッスンを選びます。

レッスンの再生が始まります。ソングマスターで選んだステップのフレーズを、選択したレッスン方式で練習しましょう。各ステップの評価として、「Timing is correct!」や「Your playing is correct!」は画面に表示されますが、合格結果は表示されません。

3 お手本、タイミング、マイペースをオフにしてソングマスターだけの状態に戻するには、[3ステップレッスン]ボタンを何度か押して、画面に「Stepxxx」(xxはステップ番号)を表示させます。

4 レッスを終了するには、[ソングマスター]ボタンを押します。

自分の演奏を録音する

自分の演奏を、ユーザーソング(User1 ~ 5:ソング番号126 ~ 130)として5曲まで録音できます。録音されたユーザーソングは、内蔵ソングと同様に再生できます(39ページ)。

ユーザーソングを新規録音する

演奏を新規に録音して、ユーザーソングとして楽器本体に保存する方法です。

1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して **SONG** アイコンを点灯させます。

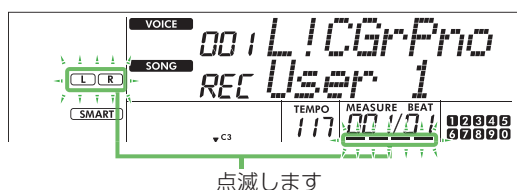


2 音色やスタイルをお好みの設定にします。

スタイルを使った演奏を録音したい場合は、スタイル(自動伴奏)をオンにします(32ページ)。

3 [録音]ボタンを押して、録音待機の状態にします。

ユーザーソング126 ~ 130(User 1 ~ 5)の中から、まだ録音されていない最も小さい番号のユーザーソングが、録音データの保存先として選ばれます。ユーザーソングを指定して録音したい場合は、[+ / YES] / [- / NO] ボタンでソング番号を指定してから[録音]ボタンを押します。



録音待機を抜けるには、[録音]ボタンをもう一度押して画面の点滅を止めます。

ご注意

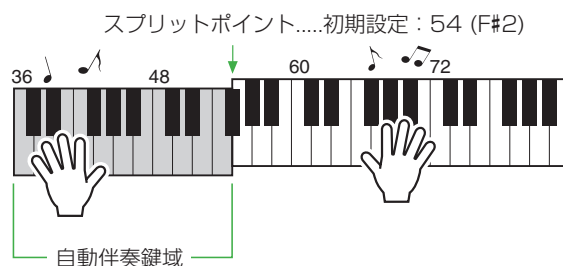
- ユーザーソングがすべて録音済みの場合、User 1(ソング番号126)が自動的に選ばれます。この場合の録音は上書き録音(すでに録音しているトラックのデータを消して新しく録音する)になりますので、大切なデータはコンピューターに保存しておきましょう(56ページ)。

NOTE

- 録音待機中は、スタイル(自動伴奏)のオン/オフを切り替えられません。

4 鍵盤を弾くのと同時に録音が始まります。

リズムだけを録音したいときは、[スタート/ストップ]ボタンを押して、セクション(33ページ)を切り替えることで、リズムパートだけを録音できます。



5 [スタート/ストップ]ボタンを押して、録音を終了します。

スタイルを使っている場合は、[イントロ/エンディング/rit.]ボタンを押すと、エンディングを再生して録音が終了します。

録音が終わると、「Writing!」と表示され、データが保存されます。

ご注意

- 「Writing!」表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししないでください。データが失われます。

6 [スタート/ストップ]ボタンを押して、録音した演奏を再生してみましょう。

録音中の制限事項

- リバーブレベル、メトロノーム音、トランスポーズ、チューニングは録音できません。
- 以下の設定やボタンは、録音中は変更できないか、変更できても録音されません。
スタイル オン/オフ、スプリットポイント、リバーブタイプ、コーラスタイプ、ハーモニー / アルペジオタイプ、[機能]ボタン、[グランドピアノ]ボタン

パート(トラック)ごとに録音する

ソングのパート(トラック)構成

ソングは、2つのパート(トラック)からできています。このパートを指定して別々に録音することができます。

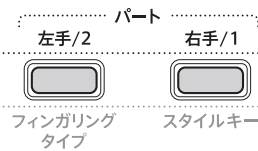
● パート1

メロディーの演奏を録音します。

● パート2

スタイル再生(コードとセクションの変更)を録音します。メロディーの演奏も録音できます。

パートを指定するには、パート[右手/1]、[左手/2]ボタンを使います。ボタン名の1、2が録音パートを意味します。



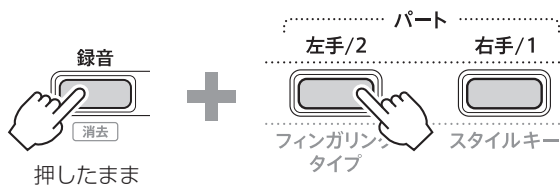
1 音色やスタイルをお好みの設定にします。

スタイルを使った演奏を録音したい場合は、スタイル(自動伴奏)をオン(32ページ)にします。

2 [録音]ボタンを押したまま、パート[右手/1]または[左手/2]ボタンを押して、録音待機状態にします。

スタイルを録音したいときは[左手/2]ボタンを押してパート2を指定してください。メロディーの演奏を録音したいときは、どちらのパートを指定してもかまいません。DSP効果はパート1にしか録音できません。

下記のイラストはパート2を選んだときの例です。



ユーザーソングが表示されます。



「R」のアイコンはパート1、「L」はパート2を意味しています。また、アイコンは状態によって、点滅、点灯、消灯します。

点滅：録音パートに選ばれています。

点灯：録音データがあります。

消灯：録音データがないか、消音されています。

録音済みのパートを再生したり、消音(ミュート)したりしながら録音できます。再生/消音するには、パート[右手/1]または[左手/2]ボタンを押します。ボタンを押すたびに、再生/消音が切り替わります。

3 [+ / YES] / [- / NO] ボタンを押して録音したいユーザーソングの番号を選びます。

録音済みソングの場合は、選んだときに「R」 / 「L」のアイコンが表示されています。

4 鍵盤を押さえると同時に録音が始まります。

録音済みパートがある場合、もう1つのパートに録音するときに[スタート/ストップ]ボタンを押すと、録音済みパートの再生に合わせて録音できます。

リズムだけを録音したいときは、[スタート/ストップ]ボタンを押し、セクション(33ページ)を切り替えることで、リズムパートだけを録音できます。

5 [スタート/ストップ]ボタンを押して、録音を終了します。

録音が終わると、「Writing!」と表示され、データが保存されます。

ご注意

- 「Writing!」表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししないでください。データが失われます。

6 [スタート/ストップ]ボタンを押して、録音した演奏を再生してみましょう。

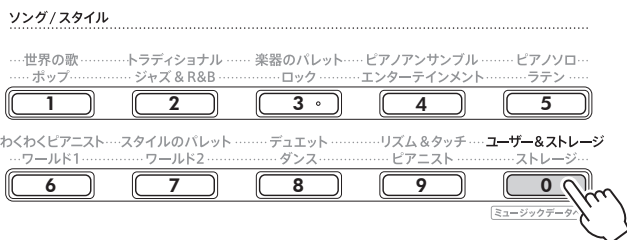
再生時にパート[右手/1]または[左手/2]ボタンを押すと、パート1またはパート2を消音することができます。ボタンを押すたびに、再生/消音が切り替わります。

ユーザーソングを消去する

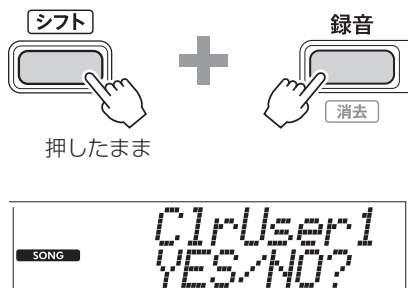
- 1 [ソング]/[スタイル]ボタンを押して **SONG** アイコンを点灯させます。



- 2 ソングカテゴリーの[ユーザー&ストレージ]ボタンを押して、消去したいユーザーソングを選びます。



- 3 [シフト]ボタンを押したまま、[録音]ボタンを押します。ソングを消去してよいか再確認するメッセージが表示されます。



ソングの消去をキャンセルする場合は、[-/NO]ボタンを押します。

- 4 [+ /YES]ボタンを押します。

ソングを消去してよいか再確認するメッセージが表示されます。



ソングの消去をキャンセルする場合は、[-/NO]ボタンを押します。

- 5 [+ /YES]ボタンを押してソングを消去します。「Writing!」と表示され、ソングが消去されます。

好みの設定を記録させる(レジストレーションメモリー)

この楽器には、お買い上げ時に10個の設定が記録されていますが、お好みの設定を上書きして記録することもできます。

記録したパネル設定を呼び出す

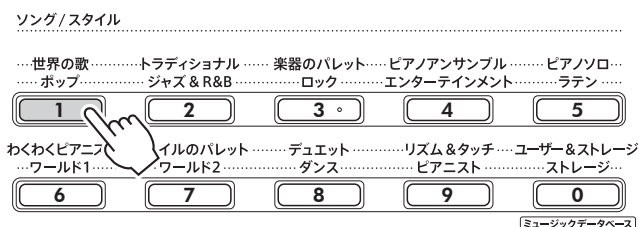
1 [レジストレーションメモリー]ボタンを押します。

ソング/スタイルカテゴリーボタンを数字ボタンとして使えるようになります。
画面には「LoadNo.？」が表示されます。



2 呼び出したいパネル設定の番号のソング/スタイルカテゴリーボタン1～0(10)を押して、設定を呼び出します。

呼び出したレジストレーションメモリーの番号とレジストレーションメモリーに保存された音色名が表示されます。



レジストレーションメモリー番号 レジストレーションメモリー内の音色名

他の数字ボタンを押すと、レジストレーションメモリーの番号を切り替えることができます。

3 呼び出しを終了するには、[レジストレーションメモリー]ボタンを押します。

お買い上げ時のレジストレーションメモリーの内容

レジストレーションメモリー番号	レジストレーションメモリーに保存された音色名
R01	S.Art Lite Harpsichord
R02	S.Art Lite Nylon Guitar Harmonics
R03	S.Art Lite Steel Guitar Harmonics
R04	S.Art Lite Distortion Guitar
R05	S.Art Lite Slap Bass
R06	S.Art Lite Strings
R07	S.Art Lite Gospel Choir
R08	S.Art Lite Tenor Sax
R09	S.Art Lite Brass Section
R00	S.Art Lite Flute

レジストレーションメモリーに記録されている設定内容

- **音色**
 - ・ メイン音色：音色番号、機能設定(60ページ)の全項目
 - ・ デュアル音色：オン/オフ、機能設定の全項目
 - ・ スプリット音色：オン/オフ、機能設定の全項目
- **エフェクト**
 - リバーブタイプ、リバーブレベル、コーラスタイプ、DSP オン/オフ、DSPタイプ、サステイン オン/オフ
- **ハーモニー /アルペジオ**
 - オン/オフ、機能設定の全項目
- **スタイル設定***
 - スタイル番号、スタイル オン/オフ、スタイル音量、テンポ、メインA/B、フィンガリングタイプ、スタイルキー、オートコードブレイ オン/オフ、オートコードブレイコード進行
- **その他**
 - トランスポーズ、スプリットポイント、デュオに関する機能設定の全項目、ペダル機能

* ソングを選んでいる状態では、スタイル設定は記録/呼び出しができません。

パネル設定をレジストレーションメモリーに記録する

- 1 パネル設定(音色、スタイルなど)を、記録させたい状態にします。
- 2 [シフト]ボタンを押したまま、[レジストレーションメモリー]ボタンを押します。
ソング/スタイルカテゴリーボタンを数字ボタンとして使えるようになります。
画面には「MemNo.？」が表示されます。



- 3 ソング/スタイルカテゴリーボタン1～0(10)のいずれかを押して、現在の設定を保存します。

すでにデータが記録されているレジストレーションメモリーを選択すると、画面に「Overwrt?」と表示されます。上書きする場合は、[+/YES]ボタンを押します。キャンセルする場合は、[-/NO]ボタンを押します。



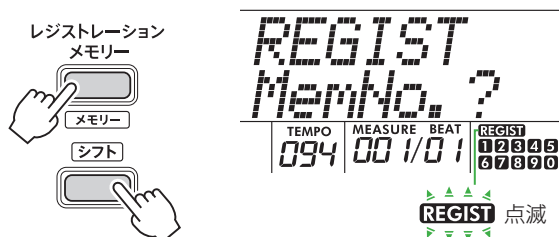
記録中の画面には、「MemOK」が表示され、設定を保存するボタンと同じ番号のアイコンが点滅します。番号の点滅が点灯になると、記録完了です。

ご注意

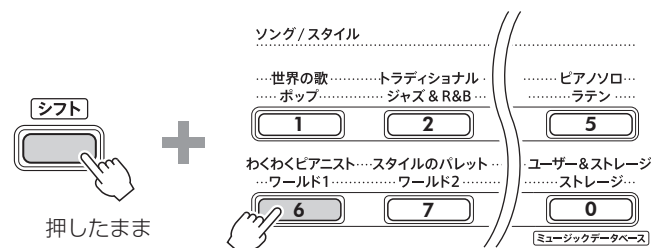
- すでにデータが記録されているレジストレーションメモリーを選択すると、データが上書きされ、以前のデータは消去されます。
- レジストレーションメモリーをお買い上げ時の内容に戻すには、バックアップクリアを行う必要があります(66ページ)。
- 「MemOK」表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししたりしないでください。データが失われます。

レジストレーションメモリーを消去する

- 1 [シフト]ボタンを押したまま、[レジストレーションメモリー]ボタンを押します。
ソング/スタイルカテゴリーボタンを数字ボタンとして使えるようになります。
画面には「MemNo.？」が表示されます。



- 2 [シフト]ボタンを押したまま、消去したいレジストレーションメモリー番号に対応したソング/スタイルカテゴリーボタン1～0(10)のいずれかを押します。



画面に「ClrRegX?」(「X」は選択したレジストレーションメモリー番号)が表示されます。

- 3 [+/YES]ボタンを押して、消去します。

消去を中止する場合は、[-/NO]ボタンを押します。消去すると、画面のレジストレーションメモリーの番号が消えます。



登録した設定のうち呼び出したいくない項目を指定する(フリーズ)

レジストレーションメモリーにはさまざまな設定を登録できますが、演奏の場面によって呼び出したいくない設定があるかもしれません。たとえば、同じスタイルを鳴らしたまま、音色の設定だけを切り替えたいときなどです。このような場合に、フリーズ機能を使えば、記録済みの別のパネル設定を呼び出しても、スタイル関連の設定は呼び出さず現状のまま固定(フリーズ)できます。機能設定(64ページ、機能番号049、050、051)で設定してください。

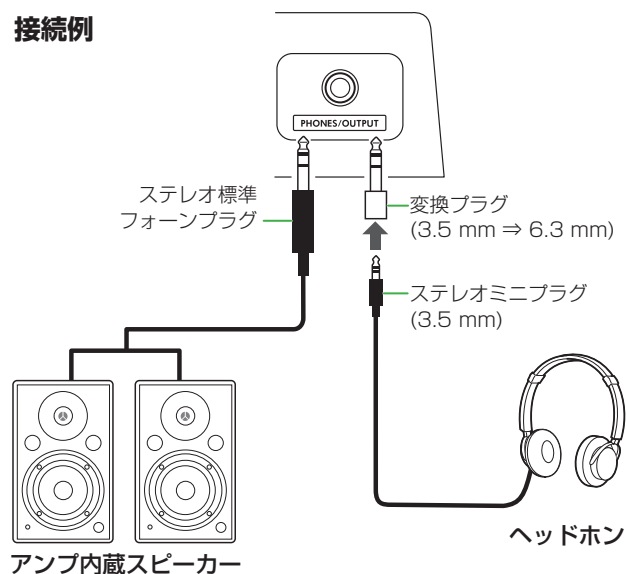
他の機器と接続する

⚠ 注意

- 他の機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量を最小にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

別売のヘッドホン/外部スピーカーを使う

接続例



ヘッドホンを[PHONES/OUTPUT]端子に接続します。[PHONES/OUTPUT]端子は外部出力端子にもなるので、アンプ内蔵スピーカー、キーボードアンプなどの外部機器を接続して、この楽器の音を接続した機器で鳴らせます。ヘッドホンや外部機器を接続すると、自動的にこの楽器のスピーカーからは音が出なくなります。

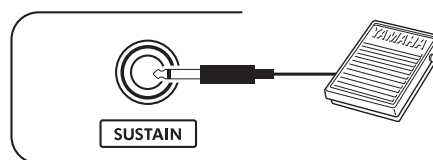
⚠ 注意

- 大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ご注意

- 外部機器の損傷を防ぐため、楽器の音を外部機器に出力するときは、最初に楽器、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器の順に行ってください。

ペダル(フットスイッチ)を使う



別売のフットスイッチ(FC5またはFC4A)を[SUSTAIN]端子に接続すると、サステイン、アーティキュレーション効果(22ページ)、アルペジオ(25ページ)の3つの機能をコントロールできます。初期設定ではサステイン機能が割り当てられていて、ピアノのダンパーペダルと同様、フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。サステイン以外の機能を使う場合は、機能設定画面(63ページ、機能番号033)で設定します。

NOTE

- フットスイッチのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- フットスイッチを踏んだまま電源を入れしないでください。フットスイッチのオン/オフが逆になります。
- サステイン効果は、メイン音色/デュアル音色の演奏音にかけることができます。スプリット音色(20ページ)、スタイル(自動伴奏)(30ページ)に効果はかかりません。

オーディオ機器の音をこの楽器で鳴らす

スマートフォン等のオーディオ機器を楽器本体に接続すれば、再生音を本体スピーカーで鳴らし、再生に合わせて鍵盤を弾くことができます。

ご注意

- 外部機器の損傷を防ぐため、楽器の音を外部機器に出力するときは、最初に楽器、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器の順に行ってください。

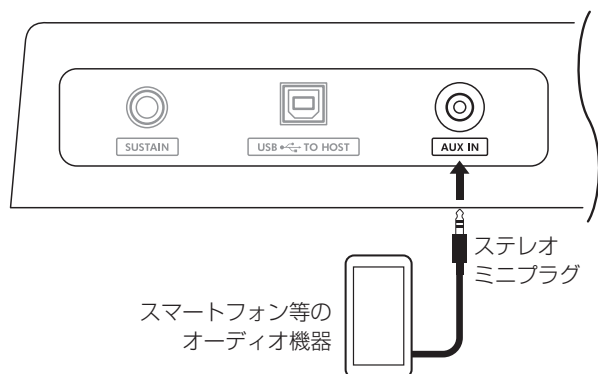
NOTE

- コンピューターやスマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスをお使いの場合は、[USB TO HOST]端子に接続して楽器から音を鳴らすこともできます(56、59ページ)。

1 オーディオ機器および楽器本体の電源をオフにします。

2 オーディオ機器を楽器本体の[AUX IN]端子に接続します。

片側がステレオミニプラグ、もう片方はオーディオ機器の出力端子に接続できるプラグを持つオーディオケーブル(抵抗なし)をお使いください。



3 オーディオ機器、楽器本体の順に電源を入れます。

4 オーディオ機器を再生します。

オーディオ機器の再生音が楽器本体のスピーカーから鳴ります。

5 オーディオ機器と楽器本体の音量バランスを調整します。

オーディオ機器でオーディオ再生音の音量を調節し、楽器本体の[全体音量]ダイヤルで全体音量を調節します。

NOTE

- 機能設定画面(64ページ、機能番号044)で「AuxInVol」を呼び出し、[+ / YES] / [- / NO]ボタンや数字ボタンで、[AUX IN]端子からのオーディオ入力音の音量を調節することもできます。ただし、初期設定の50を上回る値にすると、音がひずむ場合があります。

6 オーディオ再生音に合わせて鍵盤を弾いてみましょう。

オーディオ再生音のメロディー部分は、キャンセル(小さく)できます(59ページ)。

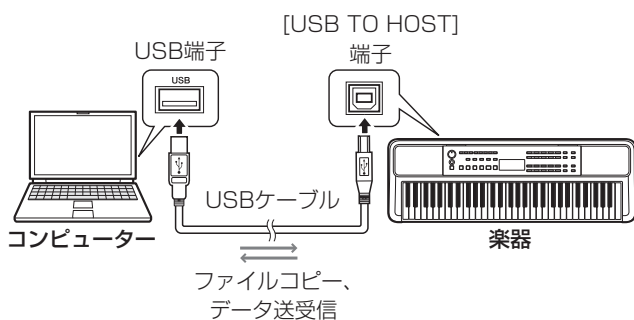
7 演奏が終わったら、オーディオ機器での再生を停止します。

コンピューターと接続する

USBケーブルで楽器とコンピューターを接続すると、次のようなことができるようになります。

- ソングやスタイルのファイルをコピー
- バックアップファイル(66ページ)をコンピューターに保存
- MIDIデータを送受信
- オーディオデータを送受信(USBオーディオインターフェース機能)

接続例



[USB TO HOST]端子ご使用について

ご注意

- USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。
- USBケーブルの抜き差しをする前に、コンピューター上のすべてのアプリケーションを終了させてください。
- 楽器の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

コンピューターや楽器が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動するか、楽器の電源を入れ直してください。

ソングファイル、スタイルファイル、バックアップファイルをコピーする

ここでは、以下2点を説明します。

- MIDIファイル(ソング/スタイル)をコンピューターから楽器に取り込む。
- バックアップファイル(.BUP、66ページ)を楽器からコンピューターに取り出す。

1 楽器の電源を切ります。

2 USBケーブルを使って、楽器背面の[USB TO HOST]端子(11ページ)とコンピューターを接続します。

3 楽器の電源を入れます。

4 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。



5 [+]/[-]ボタンを押して、画面上段に「Storage」(65ページ、機能番号058)を表示させます。



6 [+/YES]ボタンを押して、ストレージモードをオンにします。

画面に「Wait...」と表示されたあと、ストレージモードがオンになります。

7 ストレージモードがオンになると、コンピューターに楽器のドライブが作られ、自動的にエクスプローラーなどのアプリケーションが起動します。

楽器のドライブ内には、バックアップファイル(PSR-E383.BUP)が入っています。

例：Windows 10の場合



NOTE

- 楽器側に十分な空き容量がない場合、ストレージモードをオンにしたとき、楽器にエラーメッセージが出ます。コンピューター上のエクスプローラーなどのアプリケーションが立ち上がったあと、楽器側のソングファイルやスタイルファイルを削除して空き容量を確保してください。

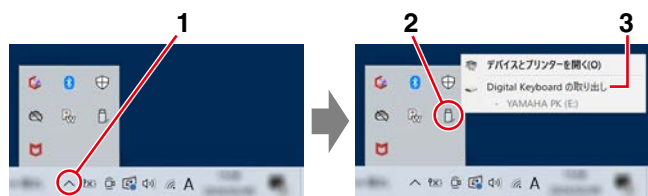
8 コンピューターの画面上で、楽器に取り込みたいファイルを楽器のドライブにコピーします。

バックアップファイルをコンピューターに保存する場合は、楽器のドライブにあるPSR-E383.BUPのファイルをコンピューターにコピーします。



9 コピーが終わったら、コンピューター上で楽器のドライブを取り出します。

Windows 10の場合、下記のイラストのように、「Digital Keyboardの取り出し」をクリックします。



10 楽器の画面で[–/NO]ボタンを押して、ストレージモードをオフにします。

画面に「Writing!」と表示されたあと、オフになります。

11 「ストレージモード」設定画面からホーム画面(17ページ)に戻るには、[シフト]ボタンを押します。

12 楽器とコンピューターをつないでいるUSBケーブルを外します。

13 楽器に取り込んだファイルが正しくコピーできたかどうか、再生して確認してみましょう(58ページ)。

ストレージモードをオンにしている間は、楽器を操作することができません。コンピューターの操作が終わったら、ストレージモードをオフにしてください。

ご注意

- USBケーブルをコンピューターから抜く前に、必ずコンピューター上で、楽器のドライブの取り外し(手順9)を行ってから抜いてください。ファイルが破損する恐れがあります。
- コンピューター上でバックアップファイル(拡張子: .BUP)のファイル名を変更(リネーム)しないでください。バックアップデータが、楽器に取り込まれなくなります。
- バックアップファイルを、再度楽器に取り込むと、それまで楽器にあった設定が破棄され、バックアップファイルの内容に変更になります。ユーザーソングや、登録したスタイルファイルも書き替わりますのでご注意ください。
- 楽器のドライブにはフォルダーを作らないでください。楽器がコピーされたファイルを正しく認識しないおそれがあります。
- 楽器のドライブはフォーマットしないでください。楽器が正常に動作しなくなるおそれがあります。

コピーできるファイル(合計約1.5 MB以内)

• ソングファイル(拡張子: .MID)

他の楽器やコンピューターで作ったソングファイルをこの楽器にコピーできます。なお、この楽器で作ったユーザーソングを単独のファイルとしてコンピューターにコピーすることはできません。

• スタイルファイル(拡張子: .STY)

この楽器にはスタイルファイルを作る機能はありませんが、他の機器で作ったスタイルファイルを読み込むことはできます。1ファイルあたりの容量上限は50 KBです。上限を超えたファイルは楽器上で認識されません。

• バックアップファイル(拡張子: .BUP)

楽器内のデータを、1つのバックアップファイルとして保存できます。保存される内容について詳しくは、「バックアップされるデータや設定」(66ページ)をご覧ください。

コピーしたファイルを確認する

楽器にコピーしたファイルが、正しくコピーできたかどうか確認してみましょう。

● ソングファイル

取り込んだソングファイルは、[ユーザー&ストレージ] カテゴリーの131番以降に入ります。

1. [ソング]/[スタイル] ボタンを押して、**SONG** アイコンを点灯させます。
2. [ユーザー&ストレージ] カテゴリーボタンを押して、取り込んだソングを選びます。
3. [スタート/ストップ] ボタンを押すと、取り込んだ曲が再生されます。

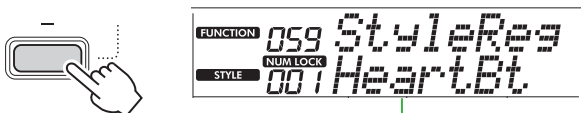
NOTE

- 楽器にコピーされたソングファイルは、楽器内ではファイル名で、記号>数字>アルファベット順に並びます。

● スタイルファイル

コピーしたスタイルファイルを楽器で使用する場合は、楽器に「登録」する作業が必要です。最大10個のスタイルが登録 (スタイル番号：261 ~ 270) でき、内蔵スタイルと同じように演奏できます。

1. [ソング]/[スタイル] ボタンを押して、**STYLE** アイコンを点灯させます。
2. [機能] ボタンを押したあと、[-] ボタンを何度か押して、スタイルファイル登録の項目「StyleReg」(65ページ、機能番号059) を表示させます。



コピーしたスタイルファイル名

3. 複数のスタイルファイルを楽器にコピーした場合は、[+ / YES] / [- / NO] ボタンを押して、登録したいスタイルを選びます。
4. [シフト] ボタンを押したまま [+ / YES] ボタンを押して、登録するスタイルを決定します。登録先を確認する画面「*** Load To?」(***は261 ~ 270の数字)が表示されます。別の番号に登録したいときは、[+ / YES] / [- / NO] ボタンを押して番号を選びます。
5. [シフト] ボタンを押したまま [+ / YES] ボタンを押すと、「LoadOK?」の登録を確認するメッセージが表示されます。登録を中止したい場合は、[シフト] ボタンを押したまま [- / NO] ボタンを押します。

6. [+ / YES] ボタンを押して、登録を実行します。登録が完了すると、画面にメッセージ「Complete」が表示されます。
7. [シフト] ボタンを押して、スタイルファイルの登録画面からホーム画面(17ページ)に戻ります。
8. [ユーザー&ストレージ] カテゴリーボタンを押して、登録したスタイルを選び、読み込んだスタイルを再生してみましょう。再生方法は32ページをご覧ください。

● バックアップファイル

録音したユーザーソングや、登録したスタイルファイルなど、保存した時の設定状態に戻っているか確認してください。

MIDIデータを送受信する

コンピューター上で再生したMIDIソングを楽器で聞いたり、楽器での演奏をMIDIデータとしてコンピューターに送信したりできます。

オーディオデータを送受信する (USBオーディオインターフェース機能)

コンピューター上で再生したオーディオデータを楽器で聞いたり、楽器での演奏をオーディオデータとしてコンピューターに送信したりできます。

Windowsの場合、オーディオデータの送受信には専用のUSBドライバー「Yamaha Steinberg USB Driver」が必要です。下記ページで「Yamaha Steinberg USB Driver」を検索し、ドライバーをコンピューターにインストールしてください。インストール方法は、ダウンロードファイルに付属のインストールガイドでご確認ください。

サポート・お問い合わせ「ソフトウェア」:

<https://jp.yamaha.com/support/updates/>

Macの場合、macOSに用意されている標準ドライバーを使いますので、ドライバーのインストールは不要です。

ご注意

- DAW(Digital Audio Workstation)などの音楽制作用アプリケーションと一緒に使用する場合は、機能設定「オーディオループバック」(64ページ、機能番号046)をオフにしてください。オンにして使用すると、オーディオデータと楽器の音がミックスされたものがDAWへ送られ、ハウリングや異音が発生することがあります。

NOTE

- 音量は、コンピューターやスマートデバイスと楽器の[全体音量]ダイヤルでそれぞれで調節します。また、[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音の音量は、機能設定画面(64ページ、機能番号045)で調節できます。
- [USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音は[全体音量]ダイヤルで音量を調節できません。鍵盤演奏とオーディオ入力音をミックスして DAW 録音する場合は、この点にご注意ください。

スマートデバイスに接続する

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと楽器を一緒に使えば、さまざまな楽しい機能が使えるようになり、可能性が広がります。接続方法については、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル」(本書2ページ)をご覧ください。

対応アプリの紹介

• MusicSoft Manager

外部で作られたソングやスタイルのデータ(MIDI)をスマートデバイスから楽器に転送したり、楽器のバックアップファイル(.BUP)をスマートデバイスに保存したりできます。

• Rec'n'Share

楽器の演奏を撮影/録音/編集して、それらのデータをSNSなどインターネットにアップロードしたりできます。

アプリに関する情報について詳しくは、下記ウェブサイトでご確認ください。

<https://www.yamaha.com/kbdapps/>

NOTE

- USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。
- USB3.0ケーブルは、使用できません。
- [USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音の音量は、機能設定画面(64ページ、機能番号045)で調節できます。

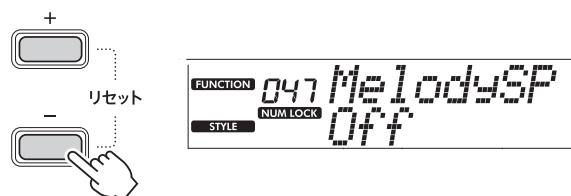
メロディーパートの音を小さくする
(メロディーキャンセル機能)

[AUX IN]端子や[USB TO HOST]端子に接続した外部オーディオ機器やコンピューターでのオーディオ再生音をこの楽器で鳴らしている場合、メロディーパートの音をキャンセル(小さくする)できます。メロディーパートを鍵盤で演奏したいときなどに便利な機能です。

1 接続した外部機器で、オーディオ再生をスタートします。

2 [機能]ボタンを押して、機能設定画面(60ページ)を表示します。

3 [+] / [-] ボタンを押して、画面上段に「MelodySP」(64ページ、機能番号047)を表示させます。



4 [+] / [YES] ボタンを押して、「On」を選びます。

NOTE

- [USB TO HOST]端子に接続してオーディオ再生音を鳴らす場合、機能設定「オーディオループバック」(64ページ、機能番号046)がオフのときは、メロディーキャンセル機能は使えません。

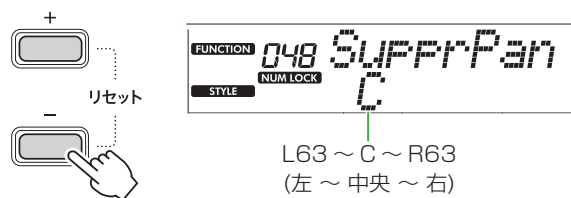
5 メロディーキャンセル機能をオフにするには、[-] / [NO] ボタンを押して「Off」を選びます。

メロディーの音が消えにくい(小さくならない)ときは

メロディーの音が小さくなるように、音が鳴る位置(定位)を調節します。

1 メロディーキャンセル機能をオンにします(上記手順2～4参照)。

2 [+] / [-] ボタンを押して、画面上段に「SupprPan」(64ページ、機能番号048)を表示させます。



3 [+] / [YES] / [-] / [NO] ボタンを押してキャンセルされる(小さくなる)音の定位を調整します。

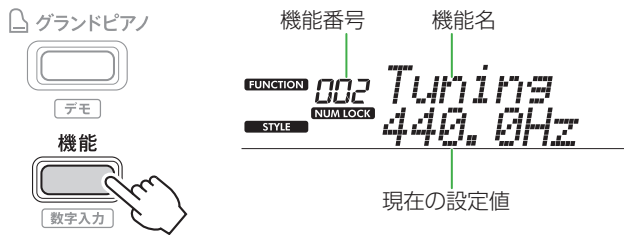
NOTE

- メロディーキャンセル機能をオンにしても、楽曲によってはメロディーの音が消えにくいことがあります。

機能設定

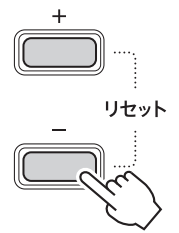
チューニングやスプリットポイント、各音色やエフェクトなどの細かな設定をするのが機能設定です。設定したい項目を、機能リスト(60～65ページ)で見つけてから、下記の操作で設定します。

1 [機能]ボタンを押して、機能設定画面を表示させます。



2 設定したい項目の機能番号、機能名が画面上段に表示されるまで、[+]/[-]ボタンを押します。

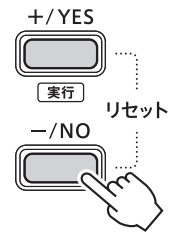
ボタンを押し続けると、連続して番号が変わります。



3 [+ / YES]、[- / NO]ボタンを押して、画面下段に表示される値を設定します。

ボタンを押し続けると、連続して値が変わります。

[+ / YES] ボタンと [- / NO] ボタンを同時に押すと、初期設定値に戻ります。



4 機能設定画面から抜けるには、[機能]ボタン、または[シフト]ボタンを押します。

機能番号や設定値を数字で設定する

[機能]ボタンを押すと、画面に **NUM LOCK** アイコンが表示され、楽器カテゴリーボタン、ソング/スタイルカテゴリーボタンを数字ボタンとして使えるようになります。

機能番号：楽器カテゴリーボタンで設定します。

設定値：ソング/スタイルカテゴリーボタンで設定します。

■ 機能リスト

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
楽器全体						
001	トランスポーズ	Transpos	-12 ~ +12	0	鍵盤の音高を半音単位で設定します。	
002	チューニング	Tuning	427.0 Hz ~ 453.0 Hz	440.0 Hz	楽器全体のチューニング(音の高さの微調整)を設定します。(約0.2 Hz単位)	✓
003	スプリットポイント	SplitPnt	36 ~ 96 (C1 ~ C6)	54 (F#2)	スプリット音色とメイン/デュアル音色が鳴る鍵域の境目を設定します(20ページ)。自動伴奏のスプリットポイントにもこの設定が適用されます(32ページ)。	✓
004	タッチレスポンス	TouchRes	1: Soft(ソフト) 2: Medium(ミディアム) 3: Hard(ハード) 4: Off(オフ)	2: Medium(ミディアム)	鍵盤を弾く強さを変えたときの音の強弱の付き方を設定します。設定値の詳細は、21ページをご覧ください。	✓
メイン音色						
005	音量	M. Volume	0 ~ 127	*	メイン音色の音量を設定します。	
006	オクターブ	M. Octave	-2 ~ +2	*	メイン音色の音域をオクターブ単位で設定します。	
007	リバーブの深さ	M. Reverb	0 ~ 127	*	メイン音色へのリバーブのかかり具合を設定します。	
008	コーラスの深さ	M. Chorus	0 ~ 127	*	メイン音色へのコーラスのかかり具合を設定します。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
デュアル音色						
009	音量	<i>D. Volume</i>	0 ~ 127	*	デュアル音色の音量を設定します。	
010	オクターブ	<i>D. Octave</i>	-2 ~ +2	*	デュアル音色の音域をオクターブ単位で設定します。	
011	リバーブの深さ	<i>D. Reverb</i>	0 ~ 127	*	デュアル音色へのリバーブのかかり具合を設定します。	
012	コーラスの深さ	<i>D. Chorus</i>	0 ~ 127	*	デュアル音色へのコーラスのかかり具合を設定します。	
スプリット音色						
013	音量	<i>S. Volume</i>	0 ~ 127	*	スプリット音色の音量を設定します。	
014	オクターブ	<i>S. Octave</i>	-2 ~ +2	*	スプリット音色の音域をオクターブ単位で設定します。	
015	リバーブの深さ	<i>S. Reverb</i>	0 ~ 127	*	スプリット音色へのリバーブのかかり具合を設定します。	
016	コーラスの深さ	<i>S. Chorus</i>	0 ~ 127	*	スプリット音色へのコーラスのかかり具合を設定します。	
スタイル						
017	スタイル音量	<i>StyleVol</i>	0 ~ 127	100	スタイルの音量を設定します。	✓
018	フィンガリングタイプ	<i>FingType</i>	1: Smart Chord(スマートコード) 2: Muti Finger(マルチフィンガー)	1: Smart Chord(スマートコード)	スタイル再生時に、自動伴奏鍵域で弾くコードの弾き方(フィンガリングタイプ)を設定します。フィンガリングタイプの詳細は、 31ページ をご覧ください。	✓
019	スタイルキー	<i>StyleKey</i>	FL7 ~ SP0 ~ SP7 FL7(フラット♭7個): C♭major/A♭minor SP0(調号なし): C major/ A minor SP7(シャープ♯7個): C♯major/A♯	SP0(調号なし): C major/ A minor	フィンガリングタイプがスマートコードに設定されているときに、楽譜に記載されたシャープ(♯)やフラット(♭)の数から、その曲の調を設定します。調が正しく設定されていると、コードのルート音(根音)を弾くだけで、自動的に曲に合ったコードを鳴らせます。 • FL7 ~ FL1: フラット(♭)が1 ~ 7つある曲の場合 • SP0: シャープもフラットもない曲の場合 • SP1 ~ SP7: シャープ(♯)が1 ~ 7つある曲の場合	
020	コード進行	<i>ChdPros.</i>	01 ~ 50	01	オートコードプレイ機能(30ページ)を使って再生するコード進行を選びます。コード進行の詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(本書 2ページ)をご覧ください。	
ソング						
021	ソング音量	<i>SongsVol</i>	0 ~ 127	100	ソングの音量を設定します。	✓
022	ソングメロディー音色	<i>MelodyVc</i>	001 ~ 650	**	内蔵ソングのメロディー音色を、お好みの音色に変えることができます。変更方法の詳細は、 40ページ をご覧ください。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
エフェクト						
023	リバーブタイプ	<i>Reverb</i>	01 ~ 04: Hall(ホール) 1、2、3、4 05: Cathedral(大聖堂) 06 ~ 09: Room(ルーム) 1、2、3、XG 10 ~ 12: Stage(ステージ) 1、2、XG 13 ~ 15: Plate(プレート) 1、2、XG 16: Off(オフ)	**	リバーブタイプを選びます(27ページ)。リバーブタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。	
024	リバーブレベル	<i>RevLevel</i>	0 ~ 127	64	リバーブのかかり具合を設定します。	
025	コーラスタイプ	<i>Chorus</i>	1 ~ 3: Chorus(コーラス) 1、2、3 4 ~ 6: Flanger(フランジャー) 1、2、XG 7: Celeste(セレステ) XG 8: Off(オフ)	**	コーラスタイプを選びます(27ページ)。コーラスタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。	
026	DSPタイプ	<i>DSPTyPe</i>	01 ~ 41	*	DSPの効果のタイプを選びます(26ページ)。DSPタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。	
027	パネルサステイン	<i>Sustain</i>	On/Off	Off	サステイン機能を有効にする(On)か無効にする(Off)かを設定します(28ページ)。	✓
028	マスターEQタイプ	<i>MasterEQ</i>	1: Standard(スタンダード) 2: Boost(ブースト) 3: Piano(ピアノ) 4: Bright(ブライト) 5: Mild(マイルド)	1: Standard(スタンダード)	楽器の本体スピーカーなどで鳴らすサウンドを、お好みの音に設定します。マスターEQタイプの詳細は、28ページをご覧ください。	✓
ハーモニー / アルペジオ						
029	ハーモニータイプ/アルペジオタイプ	<i>Harm/Arp</i>	001 ~ 026 (ハーモニー) 027 ~ 178 (アルペジオ)	*	ハーモニータイプ/アルペジオタイプを選びます(23ページ)。ハーモニータイプ/アルペジオタイプの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト(本書2ページ)をご覧ください。	
030	ハーモニー音量	<i>HarmVol</i>	0 ~ 127	*	ハーモニーの音量を設定します。	
031	アルペジオ ベロシティ	<i>ArpVelo</i>	1: Original(オリジナル) 2: Key(キー)	**	アルペジオを再生するときの強さを決める方法を選びます。 1: Original 各アルペジオの初期値で再生されます。 2: Key 鍵盤を押したときの強さに応じて再生されます。	
032	アルペジオ クオンタイズ	<i>Quantize</i>	1: Off(オフ) 2: 1/4 3: 1/8 4: 1/16	**	アルペジオ クオンタイズの設定を確認/変更します。 アルペジオ クオンタイズとは、ソングやスタイルの再生と同期するように、アルペジオ再生のタイミングを補正する機能です。 1: Off 同期しません。 2: 1/4 4分音符のタイミングで同期します。 3: 1/8 8分音符のタイミングで同期します。 4: 1/16 16分音符のタイミングで同期します。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
ペダル						
033	ペダル機能	<i>PdIFunc</i>	1: Sustain(サステイン) 2: Arpeggio Hold(アルペジオホールド) 3: Sustain+Arpeggio Hold(サステイン+アルペジオホールド) 4: Articulation(アーティキュレーション)	1: Sustain(サステイン)	[SUSTAIN]端子につないだペダル(フットスイッチ)に割り当てる機能を設定します。 1: Sustain ペダルを踏んでいる間、サステインがかかり、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。 2: Arpeggio Hold ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離してもアルペジオが鳴り続けます。 3: Sustain+Arpeggio Hold ペダルを踏んでいる間、サステインがかかり、アルペジオが鳴り続けます。 4: Articulation ペダルを踏んでいる間、アーティキュレーション効果がかかります。	
メトロノーム						
034	拍子(分子)	<i>TimeSigN</i>	0 ~ 60	**	メトロノームの拍子を設定します。	
035	拍子(分母)	<i>TimeSigD</i>	2(2分音符) 4(4分音符) 8(8分音符) 16(16分音符)	**	メトロノームの1拍の音符の長さを設定します。	
036	メトロノーム音量	<i>MetroVol</i>	0 ~ 127	100	メトロノームの音量を設定します。	✓
レッスン						
037	レッスンの右手パート	<i>R-Part</i>	1 ~ 16	1	コンピューターからコピーしたソング(フォーマット0)をレッスンに使うとき、右手パートとして再生させるチャンネルを設定します。コピーしたソングを選び、[+/YES]/[-/NO]ボタンを押して、再生させたいチャンネルを選びます。右手にはチャンネル1、左手にはチャンネル2を設定することをおすすめします。	
038	レッスンの左手パート	<i>L-Part</i>	1 ~ 16	2	コンピューターからコピーしたソング(フォーマット0)をレッスンに使うとき、左手パートとして再生させるチャンネルを設定します。コピーしたソングを選び、[+/YES]/[-/NO]ボタンを押して、再生させたいチャンネルを選びます。右手にはチャンネル1、左手にはチャンネル2を設定することをおすすめします。	
039	ユアテンポ	<i>YourTemp</i>	On/Off	On	3ステップレッスンの「3 WAITING (マイペース)」のソングのテンポを、弾くペースに合わせて変化させる(On)か、変化しない(Off)かを設定します。	✓
040	ガイド音	<i>Guide</i>	On/Off	On	3ステップレッスンの「3 WAITING (マイペース)」を使うとき、ガイド音を鳴らす(On)か鳴らさない(Off)かを設定します。	✓

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
MIDI						
041	ローカルコントロール	<i>Local</i>	On/Off	On	この楽器の鍵盤演奏を、この楽器の内部音源で鳴らす(On)か鳴らさない(Off)かを設定します。	
042	外部クロック	<i>ExtClock</i>	On/Off	Off	この楽器の自動演奏(ソング、スタイルなど)を、内部クロックで動作させる(Off)か、外部クロックで動作させる(On)かを設定します。	
043	イニシャルセンド	<i>InitSend</i>	YES/NO	-	この楽器のパネル設定をコンピューターに送信します。[+/YES]ボタンを押すと実行、[-/NO]ボタンを押すとキャンセルになります。	
オーディオ						
044	[AUX IN]オーディオ入力音量	<i>AuxInVol</i>	0 ~ 127	50	[AUX IN]端子からのオーディオ入力音(55ページ)をこの楽器で鳴らすときの音量を調節します。	✓
045	[USB TO HOST]オーディオ入力音量	<i>USBInVol</i>	0 ~ 127	100	[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音(58、59ページ)をこの楽器で鳴らすときの音量を調節します。	✓
046	オーディオループバック	<i>Loopback</i>	On/Off	On	[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を、楽器での演奏音に重ねて再度コンピューターに出力するかどうかを設定します。楽器での演奏音しか出力したくない場合はOffに設定します。	✓
047	メロディーキャンセル	<i>MelodySP</i>	On/Off	Off	[AUX IN]端子や[USB TO HOST]端子に接続した、外部オーディオ機器やコンピューターでのオーディオ再生音を、この楽器で鳴らしているときに、メロディーパートの音をキャンセル(小さくする)したい場合はOnに設定します(59ページ)。	
048	メロディーキャンセルパン	<i>SupprPan</i>	L63 ~ C ~ R63	C	外部オーディオ機器の再生音を楽器で鳴らしている場合、キャンセルさせる(小さくする)音の定位を調整します(59ページ)。	
レジストフリーズ						
049	スタイルフリーズ	<i>StyleFrz</i>	On/Off	Off	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、スタイル設定(52ページ)は呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合はOnに設定します。	✓
050	トランスポーズフリーズ	<i>TransFrz</i>	On/Off	Off	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、トランスポーズ(52ページ)は呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合はOnに設定します。	✓
051	音色フリーズ	<i>VoiceFrz</i>	On/Off	Off	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、音色設定(52ページ)は呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合はOnに設定します。	✓

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
デュオ						
052	デュオスプリットポイント	<i>DuoFnt</i>	36 ~ 96 (C1 ~ C6)	66 (F#3)	左奏者側と右奏者側の鍵域の境目を設定します(29ページ)。	
053	デュオ右鍵域音量	<i>DuoRVol</i>	0 ~ 127	*	右奏者側の鍵域の音量を調節します。	
054	デュオ左鍵域音量	<i>DuoLVol</i>	0 ~ 127	*	左奏者側の鍵域の音量を調節します。	
055	デュオ右鍵域オクターブ	<i>DuoROct</i>	-3 ~ +3	*	右奏者側のピッチ(音高)をオクターブ単位で設定します。	
056	デュオ左鍵域オクターブ	<i>DuoLOct</i>	-3 ~ +3	*	左奏者側のピッチ(音高)をオクターブ単位で設定します。	
057	デュオタイプ	<i>DuoType</i>	1: Balance(バランス) 2: Separate(セパレート)	2: Separate(セパレート)	デュオ機能使用時の、スピーカー音の鳴らし方を設定します。 各タイプの詳細は、29ページをご覧ください。	
ストレージ						
058	ストレージモード	<i>Storage</i>	On/Off	Off	この楽器とコンピューターとの間でファイルをコピーする時にOnにします。ストレージモードをOnにしている間は、楽器を演奏することができません。	
スタイルファイルの登録						
059	スタイルの登録	<i>StyleReg</i>	001 ~ nnn	-	コンピューターからコピーしたスタイルファイルを登録します(58ページ)。	
デモ						
060	デモグループ	<i>DemoGrp</i>	1: Demo(デモ) 2: Preset(プリセット) 3: User(ユーザー) 4: Storage(ストレージ)	1: Demo(デモ)	連続再生するソングのグループを設定します。各グループの詳細は、39ページをご覧ください。	✓
061	プレイモード	<i>PlayMode</i>	1: Normal(ノーマル) 2: Random(ランダム)	1: Normal(ノーマル)	ソングを連続再生するときの再生方法を設定します。 1: Normal ソング番号順に再生します。 2: Random ランダムな順番で再生します。	✓
電源						
062	オートパワーオフ	<i>AutoOff</i>	Disabled(無効)、 5/10/15/30/60/120分	15(分)	オートパワーオフ(7ページ)するまでの時間を設定します。	✓
063	バッテリー選択	<i>Battery</i>	1: Alkaline(アルカリ乾電池、 マンガン乾電池) 2: Ni-MH(充電式ニッケル水 素電池)	1: Alkaline(アルカリ乾電池、 マンガン乾電池)	バッテリー(電池)の種類を選択します。	✓

* 音色の組み合わせごとに最適な設定値になっています。

** 現在選ばれている「ソング」「スタイル」ごとに最適な設定値になっています。

バックアップと初期化

バックアップされるデータや設定

本製品上にある以下のデータや設定は、電源をオフしても維持されます。

保存領域は、バックアップエリアと、フラッシュエリアに分かれています。

バックアップエリア（「バックアップクリア」でリセットされる）

- ユーザーソング（49ページ）
- スタイル番号 261～270のスタイル（58ページ）
- レジストレーションメモリー（*1）（52ページ）
- 機能設定の各設定（*1 *2）（60ページ）
- ソングマスターの合格結果（*1）（45ページ）

*1 電源がオフになるときに保存・更新されます。

ご注意

下記の状況で電源が切れたときは設定が保存されず、電源を入れてからの操作結果は失われます。

- 電源が入っている状態で、電源アダプターを抜いたとき
- 停電などで突然電源が切れたとき
- 電池のみで使用、電池が消耗して電源が切れたとき
- 電池のみで使用、電源アダプターを接続したとき

*2 機能リスト（60～65ページ）の「バックアップ対象」列にチェックマークが入っている設定です。

フラッシュエリア（「フラッシュクリア」でリセットされる）

- コンピューターからコピーされた全ソングファイル（58ページ）
- コンピューターからコピーされた全スタイルファイル（58ページ）

バックアップファイル(.BUP)について

- バックアップエリアの全データや全設定は、ストレージモードをオンにして（56ページ）コンピューターと通信するときに、1つの圧縮ファイル「バックアップファイル」(.BUP)として、バックアップエリアからフラッシュエリア内に書き出されます。書き出されたバックアップファイルは、コンピューターに保存できます。
- コンピューターやスマートデバイスに保存したバックアップファイル(.BUP)は、必要に応じて楽器本体に戻すことが可能です。ストレージモードをオンにして、コンピューター上のバックアップファイルを楽器に上書きコピーする（楽器本体に戻す）と、ストレージモードをオフにするときに、バックアップファイル内のデータと設定がバックアップエリアに書き戻されます。

バックアップファイルのコピーについて詳しくは、56ページをご覧ください。

NOTE

- バックアップファイルの容量は、本体に保存されたデータ量に応じて変わります。最大の容量は、約618 KBです。

楽器を初期化する

バックアップデータなどを消去し、設定を工場出荷時の状態に戻すことを「初期化」と呼びます。

目的に応じて、以下の2つの方法で初期化を行ってください。

バックアップクリア

バックアップエリアの全データを消去し、設定を初期状態に戻します。

最高音の鍵盤(白鍵)を押したまま[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



フラッシュクリア

フラッシュエリアの全データを消去します。

最高音の鍵盤(白鍵)と一番高い黒鍵3つを同時に押したまま[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



ご注意

- 初期化の前に、消去したくないデータは、必要に応じてコンピューターやスマートデバイスにコピー/保存しておきましょう。フラッシュクリアで初期化する場合、購入した有料のデータも消去される可能性があります。

困ったときは

現象	原因と解決方法
[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押して、電源を入れたとき、または切ったとき、ポツンという音がする。	故障ではありません。本体に電流が流れるためです。電源を入れるときは、[全体音量]ダイヤル(7ページ)で音量を最小にしてください。
[⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押して、電源を入れたとき、電源がすぐに切れる。	過電圧保護機能が働いたためです。指定以外の電源アダプターを使用しているか、電源アダプターが壊れている可能性があります。電源アダプターは必ず指定のもの(70ページ)をご使用ください。電源アダプターが壊れている可能性がある場合は、使用を中止し、お買い上げ店、または製品に付属の取扱説明書に記載された「ヤマハ修理ご相談センター」にご連絡ください。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能(7ページ)が働いたためです。
この楽器の近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)とき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音が出る。	この楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。携帯電話の電源を切るか、携帯電話を楽器から離れたところで使ってください。
スマートデバイスのアプリと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
スマートデバイスのアプリが楽器を認識しない。	ストレージモードがOn(オン)に設定されています。機能設定画面(65ページ、機能番号058)でストレージモードをOff(オフ)にしてください。
<ul style="list-style-type: none"> 音量が小さくなった。 音質が劣化した。 スタイルやソングなどが止まる。 ソングなどの録音内容が正しく演奏(再生)されない。 突然画面の表示が消え、パネル設定がリセットされた。 	電池が消耗しています。新しい電池または充電された電池にすべて交換するか、または、付属の電源アダプターを使用してください。
鍵盤を押さえても、音が鳴らない。ソングやスタイルを再生しても、音が鳴らない。	<p>[PHONES/OUTPUT]端子に、ヘッドホンなどのプラグが接続されています。プラグを取り外してください。</p> <p>MIDIの「ローカルコントロール」がOff(オフ)に設定されています。機能設定画面(64ページ、機能番号041)でOn(オン)に設定してください。</p>
楽器を操作しても楽器が反応しない。	ストレージモードがOn(オン)に設定されています。機能設定画面(65ページ、機能番号058)でストレージモードをOff(オフ)にしてください。
同時に押さえた鍵盤の音で、鳴らない音がある。または、鍵盤演奏すると、スタイルやソングの演奏音、メトロノームが途中で途切れる。	この楽器の最大同時発音数(48音)を超えています。デュアル音色やスプリット音色、スタイルやソング、メトロノームなどを含めて最大48音の範囲で鳴らすことができます。48音以上の発音情報があった場合、発音中のいずれかの音が消えてしまいます。
ハーモニーが鳴らない。	ハーモニー(001～026)はタイプによって鳴らし方が異なります。001～005は、スタイル(自動伴奏)をオンにして(32ページ)、自動伴奏鍵域でコードを弾いてスタイルを鳴らし、右側の鍵盤を弾くと、ハーモニー音が加わります。006～026はスタイル オン/オフには関係ありません。ただし、006～012は2音同時に押さえる必要があります(24ページ)。
[スタート/ストップ] ボタンを押しても、スタイル、ソングがスタートしない。アルペジオをオンにして鍵盤を弾いても、アルペジオがスタートしない。	MIDIの「外部クロック」がOn(オン)になっています。通常は、機能設定画面(64ページ、機能番号042)で、外部クロックをOff(オフ)に設定しておきましょう。

現象	原因と解決方法
スタイル、ソングの再生音量が小さい。	各機能の音量設定を確認してください(61ページ)。
スタイルをオンにしているにもかかわらず、左手の鍵域を弾いてもコードが認識されない。	スプリットポイント(32ページ)の設定が不適切です。機能設定画面(60ページ、機能番号003)で、スプリットポイントを適切な位置に設定してください。
スタイル再生で、リズム(ドラム)パート以外の音が鳴らない。	スタイル(自動伴奏)がオンになっていません。[スタイル オン/オフ]ボタンを押して ACMP を画面に表示させてください(32ページ)。
[スタイル オン/オフ]ボタンを押しても、画面に ACMP が表示されない。	スタイルモード(12ページ)になっていません。スタイルを使うときは、まず[ソング]/[スタイル]ボタンを押して、画面に STYLE を表示させてください。
押さえたコードのとおりスタイルが鳴らない。	「フィンガリングタイプ」(31ページ)の設定が、コードの弾き方と合っていません。設定をご確認ください。 「フィンガリングタイプ」(31ページ)が、「マルチフィンガー (Multi)」に設定されている場合、以下のような現象が発生しますが、正常な動作です。 ・同じようなコードが連続した場合(マイナーセブンスコードに、同じルート音のマイナーコードが続いた場合など)、スタイルが変化しないことがあります。 ・鍵盤を2つだけ押さえた場合、直前に押さえたコードをもとに最適なコードが検出されます。 ・オクターブ(完全8度)の鍵盤を押さえた場合は、ルート音だけの伴奏が鳴ります。
フットスイッチ(サステイン)のオン/オフが逆になった(フットスイッチを踏むと音がカットされ、フットスイッチから足を離すとサステインが効く)。	電源を入れたあとにフットスイッチを接続したため、もしくはフットスイッチを踏みながら電源を入れたためです。電源を切った状態で接続し、フットスイッチを踏まずに電源を入れてください。
押さえる鍵盤によって、音質や音量が異なる。	故障ではありません。この楽器で採用しているAWM音源方式では、リアルな楽器表現を可能にするために、鍵盤をいくつかにわけて楽器音をサンプリングする「マルチサンプリング」という方式をとっています。これらの音色は、音域によって音質や音量が若干異なる場合があります。



下記ウェブサイトの「よくあるお問い合わせ(Q&A)」もご確認ください。
それでも解決しない場合は、製品に付属の取扱説明書に記載された「電子ピアノ・キーボードご相談窓口」へお問い合わせください。

<https://yamaha.io/faq-jp-pk>

仕様

品名			電子キーボード
サイズ/質量	寸法	幅×高さ×奥行	941 mm × 105 mm × 317 mm
	質量		4.4 kg (電池含まず)
操作子	鍵盤	鍵盤数	61
		タッチレスポンス	ソフト、ミディアム、ハード、オフ
	ディスプレイ	タイプ	液晶
		バックライト	○
		言語	英語
パネル	言語	日本語	
音源	音源方式		AWMステレオサンプリング
	最大同時発音数		48
	プリセット	音色数	650 (258パネル音色+25ドラム/SFXキット+20アルペジオ音色+347XGlite音色)
	対応フォーマット		GM/XGlite
効果	タイプ	リバーブ	15
		コーラス	7
		DSP	41
		マスターEQ	5
	ファンクション	デュアル	○
		スプリット	○
		デュオ	○
		パネルサステイン	○
		アルペジオ	152
		ハーモニー	26
	メロディーキャンセル	○	
	アーティキュレーション	○ (12スーパーアーティキュレーションライト音色)	
伴奏スタイル	プリセットスタイル数		260
	フィンガリング		スマートコード、マルチフィンガー
	スタイルコントロール		スタイルオン/オフ、シンクロスタート、スタート/ストップ、イントロ/エンディング/リタルダント、メイン/フィルイン
	外部スタイル		10
	その他特長	ミュージックデータベース	200
		ワンタッチセッティング (OTS)	○
		オートコードプレイ	50 コード進行
対応フォーマット		スタイルファイルフォーマット (SFF)	
録音/再生 (MIDIソング) * オーディオファイル 非対応	プリセット	内蔵曲数	125
	録音	曲数	5
		トラック数	2
		データ容量	約10,000音符
	対応フォーマット	再生	SMF (フォーマット0、フォーマット1)
		録音	オリジナルフォーマット

ファンクション	レジストレーション メモリー	メモリー数	10	
	レッスン		ソングマスター、3ステップレッスン(お手本、タイミング、マイペース)、A-Bリピート、リズム&タッチスタディ	
	デモ		○	
	USBオーディオ(USB TO HOST)		44.1 kHz、16 bit、ステレオ	
	全体設定	メトロノーム		○
		テンポ		11 ~ 280
		トランスポーズ		-12 ~ 0 ~ +12
		チューニング		427.0 ~ 440.0 ~ 453.0 Hz (約0.2 Hz単位)
その他	ピアノボタン		○	
メモリー / 接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.4 MB	
	接続端子	DC IN		12 V
		ヘッドホン/外部出力		ステレオ標準フォーン端子(ヘッドホン/OUTPUT兼用)
		サステインペダル		○
		AUX IN		ステレオミニ端子
		USB TO HOST		○ (MIDI/オーディオ)
音響	アンプ出力		2.5 W × 2	
	スピーカー		12 cm × 2	
電源部	電源	電源アダプター	PA-130C、またはヤマハ推奨の同等品 (出力：DC 12 V、0.7 A)	
		電池	単3電池(アルカリ乾電池/マンガン乾電池/充電式ニッケル水素電池)×6(別売)	
	消費電力		5 W (電源アダプター PA-130C使用時)	
	電池寿命		アルカリ乾電池：約11時間 充電式：約10.5時間	
	オートパワーオフ		○	
付属品	<ul style="list-style-type: none"> 取扱説明書 製品登録のご案内 譜面立て 電源アダプター (PA-130Cまたはヤマハ推奨の同等品) 			
別売品	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホン：HPH-150、HPH-100、HPH-50 フットスイッチ：FC4A、FC5 電源アダプター (PA-3Cまたはヤマハ推奨の同等品) キーボードスタンド：L-2L、L-2C ソフトケース：SC-KB630 			

※ 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

索引

数字

3ステップレッスン 47

A

A-Bリピート 41

AUX IN 55

D

DSP 26

L

LISTEN(お手本) 47

M

MIDI 58, 64

O

OTS 18

S

S. Art Lite音色 22

T

TIMING(タイミング) 47

U

USBオーディオインターフェース... 58

W

WAITING(マイペース) 47

ア

アーティキュレーション 22

アルペジオ 23

アルペジオタイプ 24

イ

一時停止 40

移調→トランスポーズ 60

イントロ 33

エ

エンディング 33

オ

オートコードプレイ 30

オートパワーオフ 7

お手本(LISTEN) 47

音色(楽器) 12, 13, 18

音量 7

音量(スタイル) 33, 61

音量(スプリット音色) 61

音量(ソング) 39, 61

音量(デュアル音色) 61

音量(メイン音色) 60

音量(メトロノーム) 16

カ

外部スピーカー 54

楽器(音色) 12

画面 17

乾電池→電池 6, 7

キ

機能設定 60

機能リスト 60

コ

コード 35, 36

コーラス 27

コピー(ファイル) 56

困ったときは 67

コンピューター 56

サ

サステイン 28

シ

自動伴奏 32

自動伴奏鍵域 32

仕様 69

初期化 66

シンクロススタート 32

ス

スタイル 12, 13, 30

スタイル音量 33, 61

スタイルキー 31

スタイルファイル 37, 57, 58

ストレージモード 56, 65

スプリット 20

スプリット音色 20

スプリットポイント 20, 32, 60

スマートコード 31, 36

スマートデバイス 59

スマートデバイス接続マニュアル 2

セ

セクション 33

全体音量 7

ソ

ソング 12, 13, 38

ソング音量 39, 61

ソングカテゴリー 38

ソングファイル 57, 58

ソングブック 2

ソングマスター 44

タ

タイミング(TIMING) 47

タッチレスポンス 21

タップ 15

チ

チューニング 60

テ

データリスト 2

デモ 38, 65

デュアル 19

デュアル音色 19

デュオ 29

電源 6, 7

電源アダプター 6

電池 6, 7

テンポ 15

ト

動画マニュアル 2

トランスポーズ 60

ハ

パート(ソング再生) 41

パート(録音) 50

ハーモニー 23

ハーモニータイプ 24

バックアップ 66

バックアップクリア 66

バックアップファイル 57, 58, 66

早送り 40

早戻し 40

ヒ

拍子 16

フ

フィルイン 33

フィンガリングタイプ 31

付属品 2

フットスイッチ(ペダル) 54

譜面立て 7

フラッシュクリア 66

フリーズ 53

へ

ペダル(フットスイッチ)..... 54
ヘッドホン..... 54

マ

マイペース(WAITING)..... 47
マスターEQ..... 28
マルチフィンガー..... 31

ミ

ミュージックデータベース..... 37

メ

メイン..... 33
メイン音色..... 18
メトロノーム..... 16
メトロノーム音量..... 16
メロディーキャンセル..... 59

ユ

ユーザーソング..... 49

リ

リズム&タッチスタディ..... 42
リバーブ..... 27

レ

レジストレーションメモリー..... 52
レッスン..... 43

ロ

録音..... 49

ワ

ワンタッチセッティング..... 18